

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案)(パブリックコメント版) <植物>
 【国外由来の外来種】

資料2 - 2

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着段階	カテゴリー	対策優先度の要件		特定外来種/旧要注意	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目										重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	原産地や分布	日本での分布	形態	生育環境など	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
							被害の深刻度	実効性・実行可能性				定着可能性		生態系被害		分布拡大・拡散																			
												生物	輸入	競合	交雑	変異	散布	繁殖	気候	永続															
25	224	イネ	スバルティナ属	<i>Spartina</i> spp.	定着初期 分布限定	緊急対策外来種			特定外来	干潟														北アメリカ、ヨーロッパ、北アフリカで15-16種類が知られる。	スバルティナ・アルテルニフロラ(ヒガタアシ) <i>S. alterniflora</i> が愛知県と熊本県で分布拡大中。	汽水性の多年草	海岸近くの河口域、塩沼地、干潟に生育。	海外では塩沼地の回復や、土壌の浸食防止に利用される。本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。	海外で侵略的な外来種とされており、植物体の断片により分布を拡大し、干潟の生態系や水利用に悪影響を及ぼしている。日本でも希少種が生育する貴重な生態系である干潟への影響が懸念されている。河川や干潟等の自然水域への持ち込みは行うべきではない。	北アメリカ原産の <i>S. alterniflora</i> が導入されたイギリスで <i>S. maritima</i> と交雑して不稔雑種の <i>S. x townsendii</i> を形成し、それが倍増化して <i>S. anglica</i> が生まれた。スバルティナ・アングリカは特定である IUCN ワースト100、ISSGには <i>S. anglica</i> 、 <i>S. alterniflora</i> 、 <i>S. densiflora</i> が掲載。	特定外来、W100: (UCN)、対策: H23-1、専門家: 塩沼10 各県: 愛知、海外: ISSG、その他: 藤井委員	Neira, Carlos, Levin, L A and Gosholz, E D. 2005. Benthic macrofaunal communities of three sites in San Francisco Bay invaded by hybrid <i>Spartina</i> , with comparison to			
26	34	アカウキクサ	外来アソラ類	<i>Azolla</i> spp.	分布拡大期 ~まん延期	緊急対策外来種			特定外来(一部)	アカウキクサやオオアカウキクサの生育地周辺													世界各地に分布。	本州、四国、九州に分布。現在各地で広がっているもの大半は、雑種アソラと呼ばれてきたアイオオアカウキクサ <i>Azolla cristata</i> x <i>filiculoides</i> である。	3cm、浮遊植物	湖沼、水田、溝、水路など日当たりのよい浅い水域。	合鴨農法の中で、アイガモの飼料として各地に配布されたが、アソラ・クリスタータについては特定外来生物に指定され、利用は規制されている。	H20の対策と兵庫は特定外来生物のアソラ・クリスタータ(アメリカオオアカウキクサ) <i>Azolla cristata</i> 、愛知県はアソラ・クリスタータとオオアカウキクサ大和型(ニシオオアカウキクサ)との人工雑種アイオオアカウキクサ <i>Azolla cristata</i> x <i>filiculoides</i> 、千葉県はこれら2種、ISSGは <i>A. pinnata</i> 。	特定外来、対策: H20<4、H23-4、専門家: 水生34、各県: 千葉・兵庫・愛知・愛媛、海外: ISSG	雑管、角野(2013)、写真図鑑、角野					
27	66	ヒユ	ナガエツルノゲイトウ	<i>Alternanthera philoxeroides</i>	分布拡大期 ~まん延期	緊急対策外来種			特定外来	池沼や湿地													南アメリカ原産。	1989年渡来、関東 - 沖縄の一部に分布。	長さ1m以上、多年草	水辺の湿った土地	本種は特定外来生物に指定され、利用は規制されている。		特定外来、村中: B、対策: H20-4、H23-6、専門家: 水生28 各県: 千葉・兵庫・愛知、海外: ISSG	便覧、写真図鑑、帰化植物					
28	141	ウリ	アレチウリ	<i>Sicyos angulatus</i>	分布拡大期 ~まん延期	緊急対策外来種			特定外来	河原の固有種の生育地													北アメリカ原産。	1952年に静岡に渡来。近年は飼料に混入し、北海道 - 九州に帰化。	数m、つる性の一年草	林縁、荒地、道端、原野、樹林地、造林地等に生育する。河川敷飼料畑に大群落。日当たりの良い肥沃な環境を好む。	本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。規制以前にも、利用に関する情報はなかった。	果実に刺がある。	特定外来、W100: 日本、村中: A、対策: H20-51、H23-33、専門家: 草原47、各県: 青森・栃木・埼玉・千葉・京都・兵庫・愛知・広島、河川: 44,78,84	便覧、写真図鑑、外来生物					
29	151	アリノトウグサ	オオフサモ	<i>Myriophyllum aquaticum</i>	分布拡大期 ~まん延期	緊急対策外来種			特定外来	池沼や湿地													南アメリカ原産。	大正年間に渡来。北海道 - 九州、琉球で帰化。	種子は作らない	湖沼や河川でみられる。	観賞用の水草として導入されたが、特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。		特定外来、W100: 日本、村中: A、対策: H20-11、H23-15、専門家: 水生35、各県: 栃木・埼玉・千葉・京都・愛知・兵庫・広島・佐賀・宮崎、河川: 23,29,46、海外: ISSG	雑管、便覧、写真図鑑					
30	186	ゴマノハグサ	オオカワヂシャ	<i>Veronica anagallis-aquatica</i>	分布拡大期 ~まん延期	緊急対策外来種			特定外来	カワヂシャが生育する河原や湿地													ヨーロッパ - アジア北部原産。南アメリカ、ニュージーランド、オーストラリア、南アフリカ。	渡来年代不明、本州、四国、九州で帰化。	1m、多年草	湿地、河原、水田。	本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。	絶滅危惧種のカワヂシャとの交雑が確認されている。	特定外来、村中: A、対策: H20<4、H23-6、専門家: 交雑24、各県: 栃木・愛知・京都・兵庫・広島・佐賀、河川: 6,17,36	便覧、写真図鑑、外来生物					
31	203	キク	オオキンケイギク	<i>Coreopsis lanceolata</i>	分布拡大期 ~まん延期	緊急対策外来種			特定外来	河原の固有種の生育地													北アメリカ原産	明治中期に渡来。北海道 - 九州、琉球、小笠原で逸出、帰化。	0.7m、多年草	河川敷、道路沿い、海岸などに大群落を作る。	園芸植物として渡来。ワイルドフラワー - 緑化等に使用されていた。本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。	愛知県でも、カワラサイコやカワラハハコを圧迫している。	特定外来、W100: 日本、村中: C、対策: H20-22、H23-27、専門家: 河原42・草原40、各県: 千葉・兵庫・愛知・鳥取・広島・佐賀、河川: 19,58,86	便覧、写真図鑑、帰化植物、外来生物					
32	203	キク	ミズヒマワリ	<i>Gymnocoronis spilanthoides</i>	分布拡大期 ~まん延期	緊急対策外来種			特定外来	池沼													中央 - 南アメリカ原産	1995年渡来、関東 - 四国、九州で帰化。	1.0m、多年草	河川や水路の水中や水際で繁茂する。	観賞用に利用された。本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。	治水や水利用の障害になっている。	特定外来、村中: B、対策: H20-8、H23-5、専門家: 水生26、各県: 栃木・埼玉・千葉・愛知・兵庫・佐賀、河川: 0,0,2、海外: ISSG	便覧、写真図鑑					
33	203	キク	オオハンゴンソウ	<i>Rudbeckia laciniata</i>	分布拡大期 ~まん延期	緊急対策外来種			特定外来	湿原や林床													北アメリカ原産	園芸植物として明治中期に渡来。北海道 - 九州、琉球で帰化。	3m、多年草	路傍、荒地、河原、湿原など、肥沃で湿った環境に生育する。国立公園の湿原や森林といった自然度の高い環境に繁殖し、問題となっている。	本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。	ハナガサギク(ヤエザキオオハンゴンソウ)(広島、H23-1)含む。国立公園等、各地の重要地域で駆除が行われている。	特定外来、村中: B、対策: H20-18、H23-2、専門家: 草原40・高山20、各県: 北海道・青森・栃木・千葉・愛知・兵庫・鳥取・広島、河川: 18,32,35	便覧、写真図鑑、帰化植物、外来生物					

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案)(パブリックコメント版) <植物>
【国外由来の外来種】

資料2 - 2

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着段階	カテゴリー	対策優先度の要件		特定外来種/旧要注意	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目										重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	原産地や分布	日本での分布	形態	生育環境など	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
							被害の深刻度	実効性・実行可能性				定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散																		
												生物	輸入	競合	交雑	変異	散布	繁殖	気候	永続															
34	203	キク	ナルトサワギク	<i>Senecio madagascariensis</i>	分布拡大期 ~まん延期	緊急対策外来種			特定外来															アフリカ(マダガスカル)原産	1976年渡来、本州、四国、九州で帰化。	0.7m、一年草	海辺の埋め立て地や空き地などに生える。	本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。		急性中毒は引き起こさないが、肝毒性や発がん性を有するピロリジンアルカロイドが乳汁へ移行するという報告もあり、非意図的に人的被害をもたらす危険性もある。コウベギクやカシュウボロギクの名での報告がある。	特定外来、対策: H20<4、H23-1、専門家: 千葉、愛知、兵庫、河川: 0,0.5	便覧、開花植物、写真図鑑、黒川委員、農研機構: http://www.naro.affrc.go.jp/org/niha/disease_poi/soning/fire			
35	226	サトイモ	ボタンウキサ	<i>Pistia stratiotes</i>	分布拡大期 ~まん延期	緊急対策外来種			特定外来	暖地の池沼や湿地													南アフリカ原産。	昭和初期に渡来、本州(関東以西)、四国、九州、琉球、小笠原。	0.3m、浮遊性の水草	池沼、河川、水田、水路など日当たりの良いところに生育する。	本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。		在来の水生植物に深刻な影響を及ぼす。	特定外来、W100: 日本、村中、A、対策: H20.6、H23.7、専門家: 水生36、各県: 千葉、愛知、京都、兵庫、広島、滋賀、佐賀、宮崎、河川: 2,12,24、海外: ISSG	外来生物、便覧				
36	203	キク	ツルヒヨドリ(ツルギク、ミカニア・ミクランサ)	<i>Mikania micrantha</i>	小笠原・南西諸島	緊急対策外来種			旧要注意														熱帯アメリカ原産、熱帯・亜熱帯	1984年に沖縄県うるま市の天願川河口付近で見え、本島中部一帯で繁茂し、西表島にも侵入した。周年にわたって開花する。	多年草、つる植物	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地などに生育。イネ、牧草、ゴム、チャなどのプランテーションで問題になる。日陰地でも日当たりのよい所と同様に生育がよい。	インドでは第二次大戦後、飛行機の離着陸場のカモフラージュに利用され、侵入した。日本での栽培は未確認。		写真図鑑の引用文献の学名はいずれも <i>M. cordata</i> だが、 <i>M. micrantha</i> として記述、日本に定着しているのは本種との植村氏の私信もあり、 <i>M. scandens</i> との混同が多く、ともにツルギク、ツルヒヨドリの名で呼ばれる(写真図鑑)。	要注意、W100: IUCN、海外: ISSG、その他: 横田委員、横田委員、写真図鑑	世維、藤井委員、横田委員、写真図鑑				
37	203	キク	アメリカハマグルマ(ミツバハマグルマ)	<i>Sphagnetocola trilobata</i>	小笠原・南西諸島	緊急対策外来種			旧要注意	隆起珊瑚礁など海岸砂地や岩場、林縁													フロリダ南部 - 熱帯アメリカ原産	沖縄には1970年代初期に渡来した。香川、宮崎、琉球、小笠原に帰化。	長さ5m、多年草	農耕地、海岸、自然林、植林地、草原、河原、低木林、市街地に生育。日向を好むが耐陰性もある。日本では、南西諸島の隆起珊瑚礁で猛繁殖、畑地の雑草となっている。	法面等の被覆用やつり鉢に利用される。	海外で侵略的な外来種とされ、日本でも南西諸島や小笠原諸島等で繁殖している。生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある地域への持ち込みは行うべきではない。	要注意、IUCN 村中・C、専門家: 砂浜5、各県: 小笠原、奄美、海外: ISSG、その他: 藤井委員	便覧、写真図鑑、園芸事典、JF、外来生物					
重点対策外来種																																			
38	61	ハマミズナ	バクヤギク(エデュリス、莫邪菊)	<i>Carpobrotus edulis</i>	定着初期/分布限定	重点対策外来種				海岸砂浜														南アフリカのケープ地方が原産。ヨーロッパ、オーストラリア、合衆国西部等で侵略的となっている。	愛知県の渥美半島先端部の砂浜に一時かなり広がった。	1m、多肉の多年草	海岸や攪乱地にマット状に生育する。水はけが良い土壌と、日当たりが良い環境を好む。	浸食防止、観賞用、被覆植物として利用され食用や薬用にもされる。日本でも、流通、市販されている。	海外で侵略的な外来種とされており、海浜の生態系への影響が大きい。動物により種子が散布されること等から、こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	ハギクソウやハマツツボへの影響が懸念。カルボブロッソスは丈夫で生長が速い。鉢植えではなかなか着花しないが、春に地植えすると夏頃に咲く。土壌のpHや養分条件を変える。	各県: 愛知、海外: ISSG	JF、園芸事典、IPSW			
39	92	モウセンゴケ	ナガエモウセンゴケ(ナガエノモウセンゴケ、ドロセラ・インターメディア)等の外来モウセンゴケ類	<i>Drosera intermedia</i> , <i>Drosera</i> spp.	定着初期/分布限定	重点対策外来種				湿地														北アメリカ、ヨーロッパ原産。	岡山県等で問題になっている。	15cm、多年草	ミズゴケ類が育つような湿地に生育。	観賞用に利用されている。	在来種の遺伝的な攪乱を引き起こし、貴重な生態系である湿地への影響も大きいことから、自然環境への持ち込みは行うべきではない。	重要湿地への移植が問題。在来種のモウセンゴケ <i>D. rotundifolia</i> との自然交雑が確認されている。本種の除去作業は、湿地生態系への影響も大きい。日本と同じ気候帯に分布しているため、露地栽培でよく育つ。モウセンゴケ類は多数の種子を散布し、栄養繁殖も盛ん。	対策: H20<4、H23-3、専門家: 湿地21、各県: 千葉、(ナガエノモウセンゴケ)岡山、愛媛	便覧、写真図鑑、園芸事典			
40	103	マメ	ナガバアカシア	<i>Acacia longifolia</i>	定着初期/分布限定	重点対策外来種																		オーストラリア、タスマニア原産。ニュージーランド、南アフリカ、スペイン、ポルトガル、ブラジルで、侵略的。	本州(山口)で逸出、南房総で越冬。	8m、常緑小高木	温帯性、暖地では野外で越冬。窒素を固定。海岸部の山火事が起き易い場所に生育し、河川敷、低木林、草原、森林にもみられる。年間降水量550mm以上は必要。潮風に耐える。	観賞用や砂丘の安定化のために植栽される。いくつかの変種がある。苗木入手やや難。	海外で侵略的な外来種とされており、生態系を改変するおそれがあり、動物や水により種子が散布されること等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	本種には、いくつかの変種がある。	海外: ISSG	園芸事典、熱帯花木、岡山理科大学生物地球学部生物地球学植物学研究室(渡田研) http://ha0.big.ous.ac.jp/plantsdic/angiospermae/dicotyledoneae/choripetalae/leguminosae/m			
41	103	マメ	メラノキシロンアカシア(ブラックウッドアカシア)	<i>Acacia melanoxylon</i>	定着初期/分布限定	重点対策外来種																		オーストラリア原産。アフリカ、アジア、ヨーロッパ、インド洋、太平洋、南アメリカ、アメリカ合衆国内に分布。	岡山県の王子ヶ岳では、山林火災の跡地に治山植栽された。斜面下部では、同時に植栽されたクヌギやコナラなどを被陰してほぼ純林を形成している。	35m、常緑高木	農耕地、沿岸地帯、河口、自然林、植林地、草原、河川、攪乱地、低木林、市街地、湿地、常緑のアカシアの中では比較的低温に耐えるので関東以西の沿岸部などの気温が低下しにくい場所では越冬できる。寒さにかかり耐える。東京でも越冬。	岡山県の王子ヶ岳では、山林火災の跡地に治山植栽された。暖地では、マツクイムシの被害跡地などの植栽に有望とされる。原産地では建築材として利用。	海外で侵略的な外来種とされており、動物や水により種子が散布され、日本で既に侵略的に定着していること等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	海外: ISSG	園芸事典、熱帯花木、岡山理科大学生物地球学部生物地球学植物学研究室(渡田研) http://ha0.big.ous.ac.jp/plantsdic/angiospermae/dicotyledoneae/choripetalae/leguminosae/m				
42	103	マメ	シュッコルビナス(ルビナス、タヨウハウチワマメ、ノボリフジ)	<i>Lupinus polyphyllus</i>	定着初期/分布限定	重点対策外来種				自然草原														北アメリカ、カナダ原産。ヨーロッパ、南オーストラリア、ニュージーランドで侵略的。	渡来年代不明、北海道で逸出帰化。	1.5m、多年草	草原、林縁、森林、農耕地、攪乱地、荒地。	園芸植物として栽培。花色別の園芸品種がある。飼料や緑肥にもされる。	海外で侵略的な外来種とされており、日本では草原への影響が問題とされていること等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	専門家の回答はルビナス、北海道ではシュッコルビナスはA3、キバナルビナス <i>L. luteus</i> はD、志賀高原で対策が行われている。	対策: H20<4、H23-1、専門家: 草原28、海外: ISSG	便覧、写真図鑑、園芸事典、IPSW			
43	150	アカバナ	アメリカミズユキノシタ(ルドウィギア・レベンス)	<i>Ludwigia repens</i>	定着初期/分布限定	重点対策外来種			旧要注意	池沼や湿地														北アメリカ - メキシコ - 西インド諸島原産。	1970年頃渡来、神奈川県、京都府(深泥池)で帰化。	多年草、水草	湖沼や水路等の水辺に生育。	アクアリウム用の観賞植物として栽培。	ヨーロッパやアメリカでは侵略的な外来種とされており、日本では湿地への影響が懸念されていること等から、自然環境への持ち込みは行うべきではない。	要注意、村中・B、対策: H20<4、H23-1、専門家: 水生12、河川: 0,0.1	便覧、写真図鑑、GCW				
44	184	ナス	ダイオウナスビ	<i>Solanum mauritianum</i>	定着初期/分布限定	重点対策外来種				二次林														アルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイ等	静岡県南伊豆町で、分布を拡大中	10m、小高木	農耕地、沿岸、自然林、植林地、河川、攪乱地、市街地に生育。国内では、谷沿いのモツウチク林に生育。二次林内であるが、樹林内に広がり、種子繁殖している。	農業試験場で栽培されていた可能性がある。	全草が有毒だが、特に果実が人間にとって有毒。	海外: ISSG、その他: 勝山委員	大西: 勝山(2011) Jpn. Bot 86:253-255、勝山委員				

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案)(パブリックコメント版) <植物>
【国外由来の外来種】

資料 2 - 2

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件		特定外来種/旧要注意	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目										重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	原産地や分布	日本での分布	形態	生育環境など	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
							被害の深刻度	実効性・実行可能性				定着可能性		生態系被害		分布拡大・拡散																			
												生物	輸入	競合	交雑	変異	散布	繁殖	気候	永続															
56	95	アブラナ	オランダガラシ(クレンソウ)	<i>Nasturtium officinale</i>	分布拡大期 ~まん延期	重点対策外来種			旧要注意	池沼や溪流														ヨーロッパ、中央アジア原産。南北アメリカ、オセアニアにみられる。	1870年頃渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球で栽培、逸出。	0.6m. 抽水-沈水性の多年草	水田、河川、溝、水路、流れのある沼、湖畔から山間の深流の水辺から水中に群生する。日当たりの良いところを好み、低温で生育しやすい。	食用に広く利用される。薬用に利用されるほか、水質浄化を目的に導入されることがある。種子を薬用に利用する。	一級河川で分布を拡大するとともに、湧水のあるような清冽な水域にも生育するため、こうした環境に生育する希少種等と競合し、駆逐するおそれがある。農業被害も生じることから、こうした影響を及ぼす水域に持ち込むべきではない。	農業用排水路の水流を妨げる雑草等としても駆除される。世界に温帯地域の水路で問題にもなる雑草である。茎部から容易にひげ根を発生して繁殖する。種子の発芽力は4-5年持続する。群馬県では地産色産種のワチシヤと生育場所が重なることが確認された。	要注意。村中:B. FAO.9. 対策:H23-1. 専門家:水生37. 各県:北海道・埼玉・愛知・愛媛・宮崎・河川:40.75.86	世雄、便覧、帰化植物、外来生物、園芸辞典			
57	103	マメ	モリシマアカシア	<i>Acacia mearnsii</i>	分布拡大期 ~まん延期	重点対策外来種			旧要注意	蛇紋岩地や草原														オーストラリア南東部タスマニア原産。ヨーロッパ等に分布。アフリカ南部で侵略的。	本州(愛知、大阪、兵庫、広島、山口)、四国(愛媛県)で逸出帰化。	20m. 常緑高木	草原、水辺、攪乱地、市街地、水路に生育する。乾燥した温帯地域から湿潤な熱帯地域まで生育する。愛知県田原市の笠山では、蛇紋岩地に侵入し草地植生が消失。大阪でも越冬するがやや弱い。	観賞用に栽培される。日本の暖地で緑化樹、肥料樹、樹皮に含まれるタンニンの採取のために導入。	海外で侵略的な外来種とされており、鳥やげっ歯類により種子が散布され、窒素固定により環境を改変し、アレロパシー作用もある。国内でも貴重な生態系の消失が報告されていることから、こうした環境へ侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	従来、園芸的に <i>A. mollissima</i> という名前で栽培されてきたものは、本種であることが多い。	要注意。W100:J1 CN. 各県:愛知、海外:ISSG	便覧、有用、園芸事典、熱帯花木、IPSW、JF			
58	103	マメ	イタチハギ(クロバナエンジュ)	<i>Amorpha fruticosa</i>	分布拡大期 ~まん延期	重点対策外来種			旧要注意	河川敷、海岸、亜高山帯、リンゴ園周辺														北アメリカ原産。	1912年に渡来。1940年代以降に本格的に導入。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。	4m. 落葉低木	荒地、路傍、崩壊地、土手、河川、海岸、自然度の高い亜高山帯にも定着生育。	庭園樹、砂防用、生垣用に導入。蜜・花粉ともに多いことから、蜂が好んで訪花する。また、養蜂業においては蜜源として利用されている。緑化植物として早期緑化(崩壊地やのり面等の緑化)の観点から非常に優れていることから、利用されている。	リンゴ炭そ病の発生源とされていることから、リンゴ栽培が行われている場所の周辺では、使用を避けることが望ましい。河川を中心に分布を拡大しており、河川の在来植物と競合、駆逐する等の理由で、多くの都道府県で侵略的な外来植物とされている。河川により種子が拡散される場所への持ち込みを行うべきではない。	H24に改正された養蜂振興法第六條では、「蜜源植物を植栽、除去、又は伐採しようとする者は、その目的に反しない限りにおいて、蜜源植物の増大を旨としてこれを行わなければならない。」とされ、国・地方公共団体に蜜源植物の保護・増殖に対する必要な施策を講ずることが求められている。	要注意。W100:日本、村中:B. FAO.7. 専門家:河原19. 各県:青森・埼玉・京都・兵庫・広島・愛知・徳島・佐賀。河川:37.78.93. 三省:国都・国道	便覧、写真図鑑、農林水産省、林野庁、外来生物			
59	112	ニガキ	ニワウルシ(シンジュ)	<i>Ailanthus altissima</i>	分布拡大期 ~まん延期	重点対策外来種				河川敷、二次林														中国の北-中部原産。ヨーロッパ、南北アメリカ、オーストラリア。	1880年頃に渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球で逸出帰化。	10-25m. 落葉高木	路面開削、舗道の割れ目、河川敷、荒地、土手、丘陵の林縁、耕作放棄地、日当たりの良いところを好み、	庭木、公園樹、街路樹として栽培。群馬県では、第二次世界大戦前まで「エリサン」という輸入蜜の飼料として利用されていた。高温、乾燥、寒気、公害に強く、寒冷地や煙害の強い工場地帯での利用が多い。	海外で侵略的とされ、日本でも河川等で密林を形成して、分布を拡大するとともに、雑木林への侵入も危惧されている。自然環境中への持ち込みは行うべきではない。	根萌芽により密林の個体群を形成し、水流阻害、洪水誘発を起す危険性がある。雌雄異株。生長が速い。種子は風や水により散布される。横に伸びる根から出芽する根萌芽で増殖する。ウルシ科ではないので、触れてもかぶれることはない。	村中:C. 専門家:雑木13. 各県:埼玉・河川:37.68.70. 海外:ISSG	便覧、写真図鑑、有用、園芸事典、農林水産省			
60	150	アカバナ	コマツヨイグサ	<i>Oenothera laciniosa</i>	分布拡大期 ~まん延期	重点対策外来種			旧要注意	海岸砂浜														北アメリカ東部原産。温帯-亜熱帯	1910年に渡来。北海道-九州、琉球、小笠原で帰化。	0.5m. 一-多年草	道端、荒地、市街地、畑地、樹園地、海岸や河原などの砂地。鳥取砂丘で問題になっている。	本種の利用に関する情報は得られなかった。			要注意。村中:B. 専門家:砂浜31. 各県:愛知。河川:52.84.89. その他:群馬委員	便覧、帰化植物、外来生物			
61	157	セリ	ウチワゼニコサ(タテバチドメグサ)	<i>Hydrocotyle verticillata</i> var. <i>triradiata</i>	分布拡大期 ~まん延期	重点対策外来種				池沼や湿地														北アメリカ原産。南北アメリカ、オーストラリア、アフリカに帰化。	1960年頃に渡来。千葉、神奈川県、兵庫、琉球などで帰化。	水生の多年草	やや湿った土地や水中に群生する。	観賞用に栽培される。ピオトープに導入されている可能性がある。	日本では湿地への影響が懸念されており、水散布により分布が拡大する可能性が高いことから、自然水域への持ち込みは行うべきではない。	1件はウチワゼニコサとなっていた。USDAでは <i>H. proflera</i> の別学名とされている。	対策:H23-2. 各県:愛知	便覧、写真図鑑、帰化植物、USDA			
62	170	モクセイ	トウネズミモチ	<i>Ligustrum lucidum</i>	分布拡大期 ~まん延期	重点対策外来種			旧要注意	睡地の河川敷、二次林、湿地														中国中部原産。オーストラリア、ニュージーランド、南アメリカ、アメリカ合衆国などで、侵略的となっている。	明治初年に渡来。関東-九州で逸出帰化。	10m. 常緑高木	農耕地、沿岸地域、自然林、海岸、攪乱地、湿地に生育。乾燥した場所から湿った場所にも生育する。日本では、近畿地方では河川敷に樹林が形成されるなど、河川で急速に分布を拡大。里山二次林などに侵入。	大気汚染に強く、耐湿性、耐陰性があり、移植が容易で生長が早いので、街路樹や公園樹としてよく植栽される。花が少なくなった梅雨前後に咲くことから、養蜂業においては初夏の有力な蜜源として利用されている。また、生産される蜂蜜も高品質である。干した果実が漢方薬で利用される。中国ではろうそくの原料となるイボタロウムシ培養樹として広く利用される。	海外で侵略的な外来種とされている。日本でも大量に熟す果実が鳥により散布されて河川等に広く逸出し、雑木林や樹相林への侵入も危惧されている。防除対策が実施されている。生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所では、利用を控える等の配慮が必要である。	H24に改正された養蜂振興法第六條では、「蜜源植物を植栽、除去、又は伐採しようとする者は、その目的に反しない限りにおいて、蜜源植物の増大を旨としてこれを行わなければならない。」とされ、国・地方公共団体に蜜源植物の保護・増殖に対する必要な施策を講ずることが求められている。	要注意。村中:C. 対策:H20<4. H23-1. 専門家:雑木34. 種相21. 各県:愛知・兵庫・愛媛。河川:5.30.46. 海外:ISSG	便覧、写真図鑑、農林水産省、JF、有用、園芸事典、農林水産省(2003、2005)			
63	174	キョウチクトウ	ツルニチニチソウ	<i>Vinca major</i>	分布拡大期 ~まん延期	重点対策外来種				二次林林床、草原、海岸砂浜														南ヨーロッパ原産。アフリカ南部、南アメリカ、大西洋諸島に分布。オーストラリア、ニュージーランド、合衆国西部で侵略的。	明治時代に渡来。北海道、本州九州、四国、琉球。	長さ2m. つる性の多年草	観賞用に栽培されたものがしばしば逸出し、人家付近から杉林の林床まで、様々な場所に生育。積雪地帯での生育も旺盛で、半日蔭でも良く育つ。	園芸植物として渡来。様々な園芸品種が観賞用に利用される。全国的なカバランツとしての利用度も高い。	花が綺麗であることから、野生状態でも容認されることが多い。しかし海外で侵略的な植物とされ、日本でも河川で分布拡大傾向にある。草原の植物への影響も懸念されている。さらに耐陰性があることから、林床でも繁殖するので、在来植物への影響は大きい。生物多様性の保全上重要な地域だけでなく林縁や草原に接する環境には持ち込むべきではない。	種子はあまりつらくない。	専門家:草原27. 各県:愛媛。河川:13.26.50. 海外:ISSG	便覧、写真図鑑、有用、園芸事典、JF、IPSW			
64	178	ヒルガオ	外来ノアサガオ類	<i>Ipomoea</i> spp. (<i>Pharbitis</i> spp.)	分布拡大期 ~まん延期	重点対策外来種				海岸や林縁														・アメリカアサガオ(<i>I. hederacea</i> (<i>P. hederacea</i>))は江戸時代末期(1882年頃)渡来。現在のものは輸入穀物に混ざって入ったものと考えられる。北海道、本州、四国、九州、琉球。 ・マルバアサガオは熱帯アサガオに分布する。ノアサガオはヨーロッパに分布。1971年以前に渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球。 ・マルバアサガオ(<i>I. purpurea</i> (<i>P. purpurea</i>))は江戸時代に渡来。本州以南。 ・ノアサガオ(<i>I. indica</i>)は紀伊半島以南に分布するが、園芸品種が各地で逸出(外来系統のノアサガオはオオバアサガオと区別する見解がある)。	・アメリカアサガオは、畑地、樹園地、牧草地、荒地などに生育する。土壌環境に対する適応性が大きく耐陰性もあり、海外では畑地雑草となっている。世界的な畑地雑草となっている。耐寒性が強いものが多く、各地で栽培されたものが逸出している。 ・ノアサガオは、畑地、樹園地、牧草地、荒地などに生育し、畑地雑草となっている。 ・オオバアサガオは、海岸や人里近くの道端、林縁などに生える。	・イリオモテアサガオ、オーシャンブルー、宿根アサガオ、クリスタルブルー、琉球アサガオなどと呼ばれるノアサガオの外来系統の園芸品種が盛んに栽培され、逸出している。 ・1975年に作出されたアサガオとマルバアサガオの交雑品種のヨウジロアサガオ(<i>Ipomoea nil</i> x <i>I. purpurea</i>)など、様々な園芸品種が流通、利用されている。 ・垂直面緑化(グリーンカーテン)の有望種とされる。	つる植物なので他の植物を覆いつくして生長し、種子で繁殖するもの。栄養繁殖するもの。強健で耐陰性があるもの等を含む。そのため、生物多様性の保全上重要な地域に侵入させることのないよう、管理の放棄や苗の投棄を行わない配慮が必要である。 ・栄養繁殖系栽培品種はいずれも自家不和合性で種子はできないが、薬病近くから発根して根付く。	・アサガオ属 <i>Pharbitis</i> は、ヒルガオ属 <i>Ipomoea</i> に含める文献が多いので、ここではアサガオ類とした。 ・オオバアサガオはノアサガオの外来系統を区別したものの、宮崎はオオバアサガオ <i>I. learii</i> 。 ・ソライロアサガオ <i>I. tricolor</i> をセイヨウアサガオまたはアメリカアサガオと呼ぶことがあるので混同しないよう注意が必要。 ・栄養繁殖系栽培品種はいずれも自家不和合性で種子はできないが、薬病近くから発根して根付く。	各県:愛媛・宮崎。河川:12.29.26. マルバアサガオ5.13.20. マルバアサガオ13.24.24	世雄、便覧、写真図鑑、JF、園芸事典、帰化植物、IPSW					

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案)(パブリックコメント版) <植物>
【国外由来の外来種】

資料 2 - 2

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件		特定外来種/旧要注意	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目								重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	原産地や分布	日本での分布	形態	生育環境など	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
							被害の深刻度	実効性・実行可能性				定着可能性		生態系被害		分布拡大・拡散																	
												生物	輸入	競合	交雑	変異	散布	繁殖	気候														
65	180	クマツツラ	シチヘンゲ(ランタナ)	<i>Lantana camara</i>	分布拡大期 ~まん延期	重点対策外来種			旧要注意	暖地の海岸														北アメリカ南部~ 熱帯アメリカ原産	江戸時代末期(1865年)に園芸植物として渡来。本州(関東以西)、四国、九州、琉球、小笠原で逸出、帰化。	3m、半つる性の低木	市街地、道端、牧草地、畑地、荒地、海岸、河原、低木林、自然林、二次林、原野、湿地等に生育する。日当たりを好むが、多少の日陰でも生育する。	コバランタナ <i>L. montevidensis</i> との交雑等により、草丈や花の色が多様な園芸品種や、棘がない種類や結実しない種類が多く作出されている。暖帯域では路地、温帯では温室の鉢植えや夏の花壇に使われている。果実は黒熟し、少し甘味があるので、海外では食用や香辛料に利用する。ブラジルでは葉を茶の増量材にした。中国では薬用に用いる。	海外で侵略的な外来種とされ、日本でも野生化している。園芸品種の中には結実しない種類もあるので、温暖な地域に特に重要地域では、こうした種類を用いる。	土壌中に窒素を蓄積。自家受粉も高受粉も行い、淡紅色系統のものによって運ばれる。繁殖は挿木または実生による。棘がある。	要注意、W100: IUCN、村中:C、FAO:8、専門家:海洋島28、各県:愛知・愛媛・小笠原・奄美、海外:ISSG	世雄、便覧、熱帯花木、外来生物、有用、JF	
66	182	アワゴケ	イケノミズハコベ	<i>Callitriche stagnalis</i>	分布拡大期 ~まん延期	重点対策外来種				湧水河川、水路													ヨーロッパ原産、北アメリカ、オーストラリア、ニュージーランドに帰化。	1996年渡来。福島、栃木、群馬、千葉、神奈川県、山梨に帰化。ミズハコベを駆逐しながら急速に分布を拡大している可能性がある。	水辺の小型の多年草	水田、用水路、小規模の河川のほか、水際の湿地では陸生型となって生育する。関東東北のクレンソウ栽培地が多い。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	湿地性の在来植物に悪影響。在来種のミズハコベと誤認されている場合が多い。	対策:H20<4、各県:栃木・群馬・鳥取、河川:0,0,1	便覧、帰化植物、写真図鑑、GCW、角野			
67	185	フジツツギ	フサフジツツギ(ニシキフジツツギ、チチフジツツギ、ブツレア)	<i>Buddleja davidii</i>	分布拡大期 ~まん延期	重点対策外来種				河原													中国西部原産、合衆国西部に分布、ヨーロッパ、オーストラリア、ニュージーランドで侵略的。	園芸植物として渡来するが、渡来年代不明。北海道、本州、九州では沢尻、埋壊地の堆積地、林縁、造地などの明く開けた場所に群生している。長野県長谷村の三峰川支流の黒川や戸台川河川敷で、広範囲で繁殖を続け、アシ原やヤナギを駆逐している。	2m、半常緑低木	自然林、河原、崩壊地、草原、撈乱地、市街地、水路、湿地に生育。排水の良い向陽地を好み、寒さに強い。路面間隙雑草の性質が強く、舗道の割れ目やコンクリートブロックの間でも生長。山地の崩壊地や道路法面で優占群落を形成し、分布を拡大している。	多数の園芸品種があり、日本でブツレアとして観賞用に栽培される。切り花にもされる。中国では薬用になる。	海外で侵略的な外来種とされ、風により種子が散布され、草原を森林化すること等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	繁殖は種子によるが、挿木でもできる。洪水で流され易く、川岸が浸食しやすくなる。ニュージーランドでは林業被害を引き起こしている。	村中:C、各県:兵庫県、河川:0,6,6、海外:ISSG	便覧、写真図鑑、有用、JF、園芸事典、IPSW、大窪・岡(2005)、伊藤ら(2001)、http://www.kkr.mlit.go.jp/rokko/rokko/vegetation/sp/184/index.html		
68	203	キク	オオブタクサ(クワモドキ)	<i>Ambrosia trifida</i>	分布拡大期 ~まん延期	重点対策外来種			旧要注意	湿地や河原													北アメリカ原産	1952年渡来。北海道~九州、琉球で帰化。	1~6m、一年草	畑地、牧草地、空地、堤防、鉄道線路沿い、河原など、やや涼気のある場所に大きな群落を作る。	花粉対策用にブタクサ茶が販売されている。種子や苗の流通、市販や栽培に関する情報は得られなかった。	埼玉ではヨシやスグ類など湿性草原の植物を駆逐。愛知県でも低湿地の植物への影響が懸念。飼料穀物や豆類に混入して侵入。	要注意、W100:日本、村中:A、FAO:8、H23-5、専門家:草原48、各県:埼玉・千葉・愛知・京都・兵庫・鳥取・広島・滋賀・愛媛・宮崎、河川:41,79,86	世雄、花粉、便覧、写真図鑑、外来生物			
69	203	キク	セイタカアワダチソウ(セイタカアキノキリンソウ)	<i>Solidago altissima</i>	分布拡大期 ~まん延期	重点対策外来種			旧要注意	湿原・湿地													北アメリカ原産	観賞用植物として明治時代(1897年頃)に渡来。大正末期から野生化。戦後、急速に分布拡大。北海道、本州、四国、九州、琉球、小笠原で帰化。	2.5m、多年草	路傍、空地、河川敷、土手、原野、休耕地に大群落を作る。造成によって撈乱された環境が増えると繁茂する。	現在は一般的に栽培される種類ではないが、流通はある。	湿原、草原、河川敷、奄美地域など、生物多様性の保全上重要な環境や地域、または農業上問題となる場所では、対策の対象となっている。こうした環境に侵入するおそれのある場所では、持ち込みを行うべきではない。	花粉の飛散量は少なく、花粉症の影響は小さいとの説あり。湿原や草原に侵入して駆除の対象となっている。戦前は、近縁種のカナダアキノキリンソウ <i>S. canadensis</i> と混同された。	要注意、W100:日本、村中:A、FAO:8、H23-11、専門家:草原54、各県:北海道・青森・栃木・埼玉・愛知・京都・鳥取・広島・滋賀・愛媛・宮崎・奄美、河川:71,110,111	雑管、花粉、便覧、写真図鑑、帰化植物、JF、園芸辞典		
70	203	キク	オオアワダチソウ	<i>Solidago gigantea var. leiphylla</i>	分布拡大期 ~まん延期	重点対策外来種			旧要注意	湿原・湿地													北アメリカ原産	明治中期(1880年頃)渡来。北海道~九州で逸出、帰化。	1.2m、多年草	原野、道端や、河川敷に発生。北海道ではセイタカアワダチソウより多い。	園芸植物として渡来。現在の本種の利用に関する情報は得られなかった。	愛知県では今のところ自然生態系への影響は深刻ではない。 <i>Solidago gigantea</i> ssp. <i>serotina</i> 、北海道では、知床国立公園、ウトナイ湖、礼文島等で駆除が行われている。	要注意、W100:日本、村中:B、対策:H20<4、各県:北海道・愛知、河川:28,42,47	便覧、写真図鑑、帰化植物、Ylist			
71	203	キク	外来性タンポポ種群	<i>Taraxacum officinale</i> , <i>T. spp.</i>	分布拡大期 ~まん延期	重点対策外来種			旧要注意	自然草原や高山													ヨーロッパ原産、世界中に帰化	セイヨウタンポポ <i>T. officinale</i> は1940年に北海道に渡来。北海道~九州、琉球、小笠原で帰化。	0.4m、多年草	市街地、道端、空地、畑地、牧草地、芝地、樹園地、川岸、山地、高山の駐車場まで生育する。	セイヨウタンポポやカントウタンポポが流通している。野菜として利用される。	海外で侵略的な外来種とされ、国内では草原や高山等にも侵入し、在来のタンポポとの交雑が大きな問題とされている。こうした問題を引き起こす可能性がある場所へは、持ち込みを行うべきではない。	雑管、花粉、便覧、写真図鑑、帰化植物、外来生物、JF、園芸辞典				
72	204	オモダカ	ナガバオモダカ(ジャイアントサジタリア)	<i>Sagittaria weatheriana</i>	分布拡大期 ~まん延期	重点対策外来種			旧要注意	湿地や池沼													北アメリカ原産、世界各地で栽培	1975年頃に渡来。千葉、神奈川県、東京、京都、和歌山、岡山で帰化。	0.6m、抽水性の多年草	湖沼、ため池、水路、河川に生育。天然記念物の京都の深泥池で繁茂。雌雄異株で日本には雌株のみ	ジャイアント・サジタリアの名でアウアリウムで栽培。	天然記念物の深泥池で繁茂するなど、水辺に生育する希少種と競合し、駆逐すること等から、自然水域へは持ち込むべきではない。	2010に <i>S. graminea</i> の学名から変更された。	要注意、村中:B、FAO:9、対策:H20<4、専門家:水生19、各県:愛知、河川:0,1,1	便覧、写真図鑑、帰化植物、角野		
73	205	トチカガミ	オオカナダモ(アナリス)	<i>Egeria densa</i>	分布拡大期 ~まん延期	重点対策外来種			旧要注意	池沼													南アメリカ原産、温帯	大正時代に渡来。本州~九州、琉球で帰化。京都の深泥池で繁茂。	多年草、沈水植物	湖沼、河川に生育する。日当たりの良い、浅い、停滞水域を好む。	観賞用に販売、利用される。魚の餌、植物生理の実験材料に利用。	海外で侵略的な外来種とされ、日本の河川でも分布を拡大しており、水生生物への影響が懸念され、駆除の対象となっている。茎葉の断片で繁殖することから、自然水域へは持ち込むべきではない。	日本にあるのは雄株のみで、種子繁殖はしていない。	要注意、W100:日本、村中:A、FAO:9、対策:H20<4、H23-1、専門家:水生41、各県:埼玉・愛知・兵庫・鳥取・広島・滋賀・愛媛・佐賀・宮崎、河川:30,60,70、海外:ISSG	世雄、便覧、外来生物、JF		

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案)(パブリックコメント版) <植物>
【国外由来の外来種】

資料2 - 2

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件		特定外来種/旧要注意	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目								重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	原産地や分布	日本での分布	形態	生育環境など	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
							被害の深刻度	実効性・実行可能性				定着可能性		生態系被害		分布拡大・拡散																	
												生物	輸入	競合	交雑	変異	散布	繁殖	気候														
74	205	トチカガミ	コカナガモ	<i>Elodea nuttallii</i>	分布拡大期 ~まん延期	重点対策外来種			旧要注意	池沼や溪流														アメリカ北部原産、温帯	昭和の初めに入り、本州、四国で帰化、尾瀬沼で繁茂	多年草、沈水植物 湖沼、河川、池、溝、水路に生育する。日当たりの良い、流水-停滞水域、浅水を好む。	魚の餌、植物生理の実験材料に利用、観賞用の水草として利用されることがある。	河川で分布を拡大しており、水生生物への影響が懸念される。各地で問題のある外来植物とされ、駆除の対象となっている。茎葉の断片で繁殖することから、自然水域へは持ち込むべきではない。	日本にあるのは雄株のみで、種子繁殖はしていない。	要注意、W100:日本 村中:A、FAO:9 対策:H23:1、 専門家:水生40、 各県:埼玉・鳥取・広島・滋賀・愛媛・佐賀、 河川:25.55,62	世雄、鎌井、JF、園芸事典、外来生物、世水		
75	205	トチカガミ	外来セキショウモ(オオセキショウモ(ジャイアントバリスネリア)、セイヨウセキショウモに酷似した外来種)	<i>Vallisneria gigantea</i> , <i>Vallisneria</i> spp.	分布拡大期 ~まん延期	重点対策外来種			旧要注意	池沼や溪流													オオセキショウモ:栃木県佐野市、栃木・群馬県境の白川、滋賀県草津市、熊本県白川村に定着。 セイヨウセキショウモに酷似した外来種:千葉県松戸市、愛知県岐阜県境の木曾三川下流域、岐阜県大垣市、三重県鈴鹿市、大阪府淀川水系、佐賀県佐賀市、鹿児島県東串良町での定着が確認されている。	多年生、常緑の沈水植物 湖沼、河川など日当たりの良い水域	オオセキショウモ:アクアリウムプランツとして販売されている。セイヨウセキショウモに酷似した外来種:アクアリウムプランツとしてセイヨウセキショウモの呼称で販売されているが、セイヨウセキショウモとは異なる分類群である(早稲倉ほか、未発表)。	水辺に生育する希少種と競合し、駆逐するおそれがあること等から、自然水域へは持ち込むべきではない。	定着場所では両種とも一面の優占群落を形成し、侵略的な状況を呈している。長良川では少なくとも5km以上にわたって大繁茂し、冬季には大量の切れ葉が川岸に漂着する。千葉県松戸市坂川と佐賀県佐賀市での聞き取りによれば、「繁茂して侵略的」との認識がなされている。常緑であるため、落葉性の在来種(セキショウモやコウガイモ)よりも繁殖力が高いと思われる。両分類群とも国内での有性繁殖は確認されていない。この項の文章は藤井ほか(未発表)による。在来種はセキショウモ <i>V. nsatans</i> とコウガイモ <i>V. denseserrulata</i> 、セイヨウセキショウモ <i>V. spiralis</i> とバリスネリア・ナナ <i>V. nana</i> はISSGに掲載。	海外:ISSG、 その他:藤井委員	水草、藤井、牧、未発表、早稲倉ほか、未発表、角野				
76	216	ミズアオイ	ホテイアオイ(ウォーターヒヤシンス)	<i>Eichhornia crassipes</i>	分布拡大期 ~まん延期	重点対策外来種			旧要注意	池沼や湿地													熱帯アメリカ原産	明治年間(一説では江戸時代)に渡来、本州、四国、九州、琉球に分布。	0.8m、浮遊性の多年草 富栄養化の進んだ湖沼、ため池、河川、水路などの水面。	観賞用としてに渡来、ビオトープや水質浄化にも利用。	海外で侵略的な外来種とされ、日本の河川でも分布を拡大しており、水生生物への影響が懸念される。各地で問題のある外来植物とされ、駆除の対象となっている。茎葉の断片で繁殖することから、基本的には自然水域へ持ち込むべきではなく、利用する場合には逸出しないよう適切に管理する。	種子ができない場所も多い。	要注意、W100:IUCN、日本 村中:A、FAO:12、 対策:H20:6、H23:4、 専門家:水生38、 各県:千葉・愛知・兵庫・広島・滋賀・愛媛・佐賀・宮崎・奄美、 河川:22.34,51、 海外:ISSG	鎌倉、便覧、帰化植物、園芸事典、JF、園芸事典			
77	217	アヤメ	キショウブ	<i>Iris pseudacorus</i>	分布拡大期 ~まん延期	重点対策外来種			旧要注意	池沼や湿地													ヨーロッパからアジア原産、世界各地の水湿地で観賞用に栽培される。	1897(明治30)年頃に渡来、北海道、本州、四国、九州で逸出帰化。	1.2m、多年草 湖沼、ため池、河川、水路、水田、田舎の畑地、林縁など周辺で繁殖し、湿原や草地にも侵入。水湿地を好むが、やや乾燥にも強く、池畔に適する。	園芸植物として渡来、民家や公園に植栽される。花が綺麗なため水辺に植えられ、日本でも河川等で分布を拡大している。近縁種の絶滅危惧種のカキツバタ等の遺伝的攪乱や、これらを含む水辺や草原の在来植物との競合、駆逐が危惧されている。こうした影響を及ぼすおそれのある場所へは持ち込むべきではない。	地下に横にはうたい根茎があり、分枝して繁殖する	要注意、W100:日本、村中:B、FAO:10、 対策:H23:2、 専門家:水生16、 各県:北海道・青森・埼玉・愛知・広島・佐賀、 河川:54.88,98、 海外:ISSG	世雄、帰化植物、外来生物、園芸事典、JF				
78	220	イグサ	コゴメ	<i>Juncus</i> sp.	分布拡大期 ~まん延期	重点対策外来種			旧要注意	イグサなどが生育する河川敷や湿地													ユーラシア産の <i>J. inflexus</i> に似るが別種。	1990年渡来、本州の一部で帰化。各地の河川敷に急速に分布を拡大。	1.5m、多年草 沿海地、河川敷、湿地に生える。	本種の利用状況に関しては不明であるが、イグサ属の植物は種小名が不明なものを含めて、複数種が流通、利用されている。近縁種のイグサは、畳表の材料にするために栽培されるほか、薬用等にも利用する。	水湿地に生育する在来種のイグサが消失するなど、水辺に生育する在来種と競合し、駆逐するおそれがあること等から、こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込むべきではない。	近年、各地の水湿地で在来イグサが消失し、本種に置き換わっている。原因は不明だが、競合(繁殖干渉か、)などの問題が懸念される。在来種の <i>J. effusus</i> var. <i>decipiens</i> は茎の髄が連続しているが、本種は隔壁構造をしているので区別できる。	河川:0.0,6、 その他:藤井委員	便覧、帰化植物、藤井委員、JF			
79	221	ツユクサ	ノハカタカラクサ(トキワツユクサ、トラデスカンティア・フルミネンシス)	<i>Tradescantia fluminensis</i>	分布拡大期 ~まん延期	重点対策外来種			旧要注意	二次林林床													南アメリカ原産。アジア、太平洋諸島に分布。ヨーロッパ南部、オーストラリア、北アメリカ南部で侵略的。	昭和初年に渡来、本州、四国、九州で逸出帰化。	多年草 石垣、崖地、路傍、林床などやや湿った日陰に生える。	園芸品種を含めて、観葉植物として利用。	海外でも侵略的な外来種とされ、日本でも分布を拡大している。耐陰性があるため、雑木林や樟相林の林床や水辺への侵入が、確認または危惧されている。こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込むべきではない。		要注意、専門家:雑木23、 種21、 各県:千葉・愛知・広島・愛媛・宮崎、 河川:14.37,51、 海外:ISSG	便覧、帰化植物、外来生物、有用、JF、園芸事典、IPSW			
80	224	イネ	オオハマギヤ(アメリカニンニク、アメリカカイゴンソウ)	<i>Ammophila breviflora</i>	分布拡大期 ~まん延期	重点対策外来種			旧要注意	海岸砂浜													北アメリカ原産。	1955年頃から日本各地の飛砂防止に植栽。1976年に静岡県で野生化が確認。青森、秋田、山形、宮城、新潟、石川、千葉、鳥取に分布。	1m、多年草 沿岸地域に生育する。	北米では砂止めに利用されている。北日本や日本海側を中心に、飛砂防止に植栽。	近縁種が海外で侵略的となっており、本種も根や株で分布を拡大し、生態系を改変するおそれがある。日本での海岸の生態系に影響を及ぼすおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	近縁種のビーチグラス <i>A. arenaria</i> は侵略的な植物にあげられている。海岸植物への影響が懸念。種子による繁殖が行わず、地下茎により栄養繁殖。	各県:千葉、 河川:0.2,2	便覧、帰化植物、有用、ISSG、GCW、USDA			
81	224	イネ	シナダレスズメギヤ(ウイピングラブグラス、セイタカカゼクサ)	<i>Eragrostis curvula</i>	分布拡大期 ~まん延期	重点対策外来種			旧要注意	河原、海岸砂浜													アフリカ南部原産、温帯-熱帯	1959年に四国農業試験場に導入後、各地に導入。北海道、本州、四国、九州、琉球。	1.2m、多年草 牧草地、路傍、荒地、河原等に生育。日当たりの良い、砂質土壌を好む。	栽培用に品種改良され、世界的にはやせ地の飼料生産に利用されるが草質が良くないため、日本では牧草よりも砂防用に導入され、高速道路や宅地造成地の土どめ用にも利用された。近年は生態系への影響を心配され、あまり利用されなくなった。	河原や砂丘に侵入して大株となり、在来植物と競合し、駆逐する。砂の堆積を促進することで、生態系の物理的な基盤を変化させる。こうした環境に侵入するおそれのある場所へは、持ち込みを行うべきではない。	愛知県ではスキのような大型の植物まで駆逐。河原に生育するカララギ(絶滅危惧種)類(VU)やカララギ(絶滅危惧種)への影響が危惧される。	要注意、W100:日本 村中:A、FAO:8、 対策:H20:<4、 専門家:河原46、 各県:埼玉・愛知・兵庫・広島・愛媛・佐賀・奄美、 河川:61,104,107、 三省:環・農・林、 国都:国道	世雄、便覧、外来生物			
82	224	イネ	チクゴスズメヒエ	<i>Paspalum distichum</i> var. <i>indutum</i>	分布拡大期 ~まん延期	重点対策外来種			旧要注意	湿地や池沼													北アメリカ南部原産。	1970年代に福岡県筑後地方で確認。本州、四国、九州、琉球の一部。	多年草 湿地、水路、水田、湖沼、河川、ため池に生育。キョウシュスズメヒエと分布が重なるが、より水深の深いところに生育する。	本種の利用に関する情報は得られなかった。		キョウシュスズメヒエの変種、防除困難な水田雑草。	FAO:C、 対策:H20:<4、 H23:2、 専門家:水生21、 河川:7.9,23	鎌倉、便覧、写真図鑑、帰化植物、世雄、角野			

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案)(パブリックコメント版) <植物>
【国外由来の外来種】

資料2 - 2

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着段階	カテゴリー	対策優先度の要件		特定外来種/旧要注意	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目										重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	原産地や分布	日本での分布	形態	生育環境など	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
							被害の深刻度	実効性・実行可能性				定着可能性		生態系被害		分布拡大・拡散																			
												生物	輸入	競合	交雑	変異	散布	繁殖	気候	永続															
94	144	フトモモ	テリハバンジロウ(キバンジロウ、キバンザクロ、シマフトモモ)	<i>Psidium cattleianum</i>	小笠原・南西諸島	重点対策外来種			旧要注意	森林														ブラジル原産。世界各地で栽培され、オーストラリア、合衆国南東部、インド洋諸島、ハワイ等で侵略的となっている。	風味が優れた品種であるキミバンジロウ(<i>lucidum</i>)が、1909(明治42)年に輸入され、小笠原で栽培されて野生化した。キミバンジロウの沖縄への渡来年代は不明だが、1940年代後半には栽培があったと推測される。母種のテリハバンジロウは、昭和初期から栽培されている。	2.5m、常緑の小低木	農耕地、海岸、自然林、植林地、草原、川岸、低木林、市街地、湿地に生育する。耐陰性がある。日本では父島の畑地や屋敷跡等に野生化している。	果実を生または加工して食用するために栽培される。	海外で侵略的な外来植物とされ、日本でも小笠原諸島では野生化している。種子が鳥による散布されることから、 小笠原諸島等の生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所への持ち込みは行うべきではない。	別学名 <i>P. littorale</i> 。種子は果実を食べる動物や鳥により運ばれる。	要注意、IUCN 専門家、海洋島22、各県：小笠原、海外：ISSG	便覧、写真図鑑、Ylist、有用、外来生物、IPSW、JF			
95	178	ヒルガオ	モミジバヒルガオ(タイワンアサガオ、モミジヒルガオ)	<i>Ipomoea cairica</i>	小笠原・南西諸島	重点対策外来種																	熱帯アフリカ原産。オーストラリア、北アメリカ、南アメリカ等に分布。	1933年以前に渡来。栃木、熊本、宮崎、鹿児島、琉球、小笠原諸島(賢島)に帰化。奄美大島、徳之島、沖縄島では既にかなり広がっている。沖縄島北部の国有林にも定着し始めた。	数m、つる性の多年草	海岸砂丘、断崖、林縁、川岸に生育。つるが良く伸びて、性質強健のため、広い地域に帰化している。	園芸品種があり、花卉として栽培される。熱帯では飢饉時に食用にする。	海外で侵略的な外来植物とされ、つる性の強健な植物であることから、 温暖な地域では在来植物との競合、駆逐が危惧される。生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある地域へは、持ち込みを行うべきではない。	奄美地域では、ソコニヒルガオ <i>I. gracilis</i> など。鹿児島県RDBの近縁種が複数生育する。アメリカハマグラムと同様に非常に侵略的。塊根を持つ、周年開花性である。	各県：奄美、海外：ISSG、その他：藤井委員、横田委員	便覧、写真図鑑、横田委員、Ylist、草本、園芸事典、ISPW、JF				
96	180	クマツヅラ	ヒメイワダレソウ(ヒメイワダレ)	<i>Phyla canescens</i>	小笠原・南西諸島	重点対策外来種				河原や草原													南アメリカ(ペルー)原産。	昭和初年(1926年)に渡来、宮崎、琉球に帰化。	0.3m、小低木	牧草地、草地、水路、氾濫原、灌漑地域の下流に生育。非耐寒性。粗い土壌で乾燥気味に栽培する。	園芸植物として渡来。本種とともに、在来種のイワダレソウ <i>Phyla nodiflora</i> (<i>L. nodiflora</i>)またはその交雑品種(<i>L. nodiflora</i> x <i>L. canescens</i>)が、クアビアの名前で、法面、畦畔、公園等の緑化に利用。	日本では影響は報告されていないが、海外では侵略的となっていることから、 生物多様性の保全上重要な地域の特に関海や河原等に侵入するおそれのある地域への持ち込みは行うべきではない。		各県：奄美、その他：藤井委員	便覧、園芸事典、池原(1989)、(初島)天野、(1994)、GCW				
97	212	リュウゼツラン	アオリウゼツラン(リュウゼツラン)	<i>Agave americana</i>	小笠原・南西諸島	重点対策外来種				海岸岩場													合衆国西部-メキシコ原産。ヨーロッパ、アフリカ南部、オーストラリア、太平洋諸島に分布。ヨーロッパの南部と地中海諸島、アフリカ南部、大西洋諸島で侵略的。	1879(明治12)年に輸入。静岡、香川、小笠原、沖縄に帰化。	2.5m、他肉性の常緑多年草	小笠原では岩場で群落形成。荒原植生を駆逐。耐寒性が強く、関東以西では露地植えが可能である。	初めは繊維原料植物として導入されたが、後に導入されたサイザルアサ <i>A. sisalana</i> に比べて繊維質が弱いために栽培が中止された。近年は、様々な班入りの園芸品種が観賞用に栽培される。メキシコでは発酵酒の原料となる。	海外で侵略的な外来植物とされ、日本でも小笠原諸島では在来種を駆逐している。生物多様性の保全上重要な地域では、 自然環境中へ拡散しないように利用する。	単にリュウゼツランというときは、葉に斑が入った栽培品種「クリンリュウゼツラン」 <i>Marginata</i> をさす。種子は風で散布される。植物体の断片で繁殖する。	各県：小笠原、海外：ISSG	便覧、観葉、園芸事典、JF、IPSW				
98	224	イネ	モンツキガヤ(アイダガヤ、ナンゴクヒメアブラススキ)	<i>Bothriochloa bladhii</i>	小笠原・南西諸島	重点対策外来種				海岸草原													オーストラリア産の植物で原記載されたが、熱帯アジアからオーストラリアに広く分布する。	2005年に沖縄県竹富町、2000年に東京都小笠原村で確認。小笠原の父島と兄島で分布を拡大。	0.6-1.0mの多年草	路傍、海浜等。直射日光が豊富に当たる立地で生育。水はけのよい土壌を好み、酸性、乾燥、貧栄養な土壌に生育する。	海外では、被覆植物として利用される。暖地では牧草に利用されることがあるが品質は高くない。北アメリカでは交雑品種もある。日本での本種の利用に関する情報は得られなかった。	海外で侵略的な植物とされ、日本でも小笠原で分布を拡大していることから、 生物多様性の保全上重要な地域には、持ち込みを行うべきではない。	ノヤギの食圧を受けて生育数や生長が抑制されていたが、ノヤギの駆除により低密度化したことで、増加している。別学名 <i>B. glabra</i> 、 <i>B. glabra</i> ssp. <i>haenkei</i> 、 <i>B. glabra</i> var. <i>perfectior</i> 、 <i>B. intermedia</i> 、 <i>B. intermedia</i> var. <i>punctata</i> 、 <i>B. haenkei</i> 、 <i>Andropogon intermedia</i> 、 <i>Amphipogon intermedia</i> 。	その他：林野庁	邑田・米倉(2012)、Ylist、生物多様性センター http://www.biodic.go.jp/center/kyo_uhon/HP_10_p.html 、小笠原植物誌 http://www.ogasawara-syokubutusi.com/index.htm 、USDA、PIER				
99	224	イネ	ヨシススキ(サッカラム、パープルビーブルグリーター)	<i>Saccharum arundinaceum</i>	小笠原・南西諸島	重点対策外来種																	インド-東南アジア原産。熱帯-温帯アジアに分布する。	1935年以前に渡来。琉球で逸出帰化。	2-5m、多年草	近縁種のワセオバナ <i>S. spontaneum</i> は、日当たりの良い所を好み、土壌の種類を選ばず、畑地、樹園地、路傍、荒地に生える。	飼料植物や防風垣として渡来した。サッカラム、パープルビーブルグリーター「Purple People Greeter」という品種が流通、販売されている。	大型で強固な株を形成する植物であることから、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	別学名 <i>Erianthus arundinaceus</i> 、サトウキビ <i>S. officinarum</i> の近縁種。海外から輸入されるススキに混入している可能性がある。	その他：藤井委員	Ylist、便覧、沖縄野外、世雑、USDA、写真図鑑				
その他の総合対策外来種																																			
100	57	タデ	カライタドリ	<i>Fallopia forbesii</i>		定着初期/分布限定				イタドリやオオイタドリの生育地周辺													八甲田山の後藤伍長銅像のある銅像茶屋からみちのく深沢温泉までの車道を拡幅した法面緑化工事に種子吹き付けて群生地が発生した。	1.5m、多年草	別の車道沿いにも発生しているため、分布域が広がって来ていると推測出来る。	日本では、法面緑化工事に利用。	海外で侵略的な外来種とされている日本のイタドリと同様に、本種も日本でも侵略的となる可能性が高いと考えられる。生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	交雑による遺伝的攪乱が懸念。青森県では国立公園内で蔓延することは望ましくないとされている。青森県では学名が <i>F. forbesii</i> となっているが誤り、別学名 <i>Polygonum reynoutria</i> var. <i>elliptica</i> 、 <i>Reynoutria forbesii</i> 、 <i>Reynoutria japonica</i> 。海外では日本のイタドリ <i>Fallopia japonica</i> が侵略的となっている。	各県：青森	Ylist					
101	93	ケシ	ハカマオニグシ(ポタングシ)	<i>Papaver bracteatum</i>		定着初期/分布限定																	千葉県では平成以前に侵入し、生育量はごく少ない。千葉県以外でも、誤って栽培されている可能性はある。		1.5m、多年草	近縁種のアオニグシ <i>P. orientale</i> は一般的に栽培されているので、誤って混在している可能性がある。	本種の栽培は麻薬取締法で規制されているが、近縁種のアオニグシまたはオニグシとの交雑で作られた園芸品種との区別が困難なため、誤って流通し、観賞用に栽培されたり、逸出することがある。	本種の栽培は麻薬取締法で規制されている。不正栽培または自生しているけしを発見した場合は、各地方厚生(支)局 麻薬取締部(支所)、都道府県業務主管課、保健所、警察署へ連絡する。	麻薬取締法の対象種。園芸事典では、アオニグシ <i>P. orientale</i> の別名とされ、中間形があるため区別が困難とされている。	各県：千葉	便覧、園芸事典、(西田委員)				
102	122	ツリフネソウ	アカボシツリフネ(アカボシツリフネソウ、ケブツリフネ、ケブツリフネソウ)	<i>Impatiens capensis</i>		定着初期/分布限定				湿地													北アメリカ原産。ヨーロッパでは、古くから逸出、帰化が知られている。	1992年渡来。千葉県野田市利根運河で大群落。	0.4-2m、一年草	湿生植物へに影響が懸念。フランス、イギリスなど、ヨーロッパでは古くから逸出、帰化。	本種の利用に関する情報は得られなかったが、花が美しいので栽培される可能性はある。	在来種のキツリフネ <i>I. noli-tangere</i> によく似ているため、誤同定されている可能性がある。わが国には、ニリツリフネ <i>I. biflora</i> の帰化の記録があるが、この学名は本種のシノニムとされており、検討を要する。	各県：千葉	便覧、写真図鑑、帰化植物、GCW					

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案)(パブリックコメント版) <植物>
【国外由来の外来種】

資料2 - 2

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着段階 ~まん延期	カテゴリー その他 の総合 対策外 来種	対策優先度の要件		特定外 来種/注 意事項	特に問題となる地 域や環境	選定理由	評価項目										重要 地域	人体	経済・ 産業	利用	付着・ 混入	原産地や分布	日本での分布	形態	生育環境など	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
							被害の深刻 度	実効性・実 行可能性				定着可能性		生態系被害		分布拡大・拡散																			
												生物	輸入	競合	交雑	変異	散布	繁殖	気候	永続															
111	57	タデ	ヒメスイバ	<i>Rumex acetosella</i>	分布拡大期 ~まん延期	その他 の総合 対策外 来種				海岸砂浜、山地草 原													ヨーロッパ原産、 ヨーロッパ、アジ ア、アメリカ、南北 アメリカ、オセア ニア、温帯-寒帯を 中心に分布し、熱 帯-亜熱帯の高地 にも広がる	明治初期に渡来、北海道、本 州、四国、九州、琉球、	0.5m、多 年草	芝地、牧草地、樹園地、路傍、 荒地などに生育する。ときに亜 高山帯まで侵入する。日当たり の良い湿潤地-半湿潤地を好む。 pHの低い所に適応する。日陰 地では生育が悪い。河川で増 加しており、砂浜への侵入が 危惧されている。	海外では、鉱業地域の緑化や食用 にされる。国内での本種の利用に 関する情報は得られなかった。		YListでは、標準名 <i>Rumex acetosella</i> ssp. <i>pyrenaeicus</i> 、別学 名 <i>Acetosella angiocarpa</i> 、 <i>Rumex angiocarpus</i> 、種子と根茎により繁殖。 種子の伝播は風、雨、動物等 による。種子に休眠性がある。ア レロパシー作用がある。シュウ酸 を含む。	村中・C、 対 策:H20<4、 河川:43.82.86、 海外:ISSG	世雄、便 覧、写真図 鑑、雑管、 Ylist				
112	57	タデ	ナガバギンギシ(チ ジメスイバ)	<i>Rumex crispus</i>	分布拡大期 ~まん延期	その他 の総合 対策外 来種				Nダイオウなどの在 来のギンギシ類の 生育地周辺												ユーラシア原産、 北アメリカ、南ア メリカ、太平洋諸島 など、温帯-熱帯 に分布。オースト リアで侵略的。	1891年頃に渡来、北海道、本 州、四国、九州、琉球、	1.5m、多 年草	牧草地、樹園地、畑地、路傍、 荒地、草原、低木林、市街地な どに生育。低地から高地まで 生える。日当たりのよい湿った ところを好む。	外国では、薬用や花序がドライフ ラワーに利用される。国内での本種 の利用に関する情報は得られな かった。		JハラダイオウR. × <i>pratensis</i> は、エリノギギンギシ <i>obtusifolius</i> との雑種とされる。外国産ギンギ シ類は、Nダイオウやマイオウ との交雑が懸念される。海外で は、シュウ酸による羊の中毒が報 告されている。別学名 <i>Rumex crispus</i> ssp. <i>Fauriei</i> 、	村中C、専 門家:交雑11*、 河川: 39.77.90、海 外:ISSG	世雄、便 覧、写真図 鑑、雑管、 Ylist、園芸 事典、IPSW					
113	57	タデ	エリノギギンギシ(ヒ ロバギンギシ)	<i>Rumex obtusifolius</i> var. <i>agrestis</i>	分布拡大期 ~まん延期	その他 の総合 対策外 来種			旧要注 意	亜高山帯の自然草 原や湿地、Nダイ オウなどの在来 のギンギシ類の 生育地周辺												ヨーロッパ原産、温 帯	明治中期頃に渡来、北海道、 本州、四国、九州、	1.3m、多 年草	牧草地、樹園地、芝地、畑地、 路傍、川岸、荒地、林地に生 育。耐寒性が強いので、亜高 山帯の自然公園などにも侵 入。	海外では薬用に利用される。国内 での本種の利用に関する情報は得 られなかった。		JハラダイオウR. × <i>pratensis</i> は、ナガバギンギシ <i>R. crispus</i> との雑種とされる。その他にも複 種の雑種が知られる。外国産ギ ンギシ類は、Nダイオウやマイ オウとの交雑が懸念される。	要注 意、村 中C、FAO:5、 対策:H20<4、 専門家、草原 43:交雑11*、 各県、青森、愛 知、京都、河 川:61.105.108、 海外:ISSG、 その他:藤井委員	便覧、写真 図鑑、雑 管、外来生 物					
114	64	ナデシコ	ムシトリナデシコ (ハエトリナデシコ、 コマチソウ)	<i>Silene armeria</i>	分布拡大期 ~まん延期	その他 の総合 対策外 来種				河原												ヨーロッパ原産、各 国で観賞用に栽培 され、野生化。	江戸時代末期に観賞用植物 として渡来、北海道、本州、四 国、九州、琉球、	0.7m、一 年草	河川敷、市街地、荒地、道端に 生育。病気、害虫もなく丈夫 である。日当たりと排水の良い肥 沃な土壌を好む。	観賞用植物として花壇などで栽培。 玉咲きの園芸種などもある。		河川で分布を拡大しており、河原 に生育する植物や景観への影響 が懸念される。河川を通じて、分 布を拡大するおそれのある場所 には、持ち込みを行うべきでは ない。	食虫植物ではない。種子で増殖 する。	専門家:河原 17、河川: 50.97.104	便覧、写真 図鑑、有 用、園芸事 典、JF、藤 井委員				
115	64	ナデシコ	マンテマ(マンテマ ン)	<i>Silene gallica</i> var. <i>quinquevulnera</i>	分布拡大期 ~まん延期	その他 の総合 対策外 来種				海岸砂地、河原、 湖岸の砂地												ヨーロッパ原産、ア フリカ、西アジア、 オセアニア、南北 アメリカ、太平洋諸島 等、温帯-熱帯、 オーストラリア等 では雑草化。	江戸時代に園芸植物として渡 来。本州、四国、九州、屋久 島、	0.5m、一 年草	海浜の砂地や疎林、埋立地、 路傍の草地、河川敷、畑地、荒 地、市街地に生育。海岸や湖 岸の砂丘植生において侵略 的。	流通、販売される。		河川で分布を拡大しており、種子 が風や動物により散布され、海 浜の砂地に侵入すること等から、 海岸や湖岸の砂丘植生への影響 が懸念される。こうした環境に侵 入するおそれのある場所には、持 ち込みを行うべきではない。	狭義のマンテマ <i>S. gallica</i> var. <i>quinquevulnera</i> ssp. <i>silicola</i> 、マン テマ <i>S. gallica</i> var. <i>gallica</i> を含む。 種子の伝播は風、雨、動物、人間 による。	河川:30.49.62	便覧、雑化 植物、写真 図鑑、園芸 事典、JF、 GCW、世雄				
116	65	アカザ	ホコガタアカザ	<i>Atriplex prostrata</i>	分布拡大期 ~まん延期	その他 の総合 対策外 来種				塩湿地												ヨーロッパ原産。南 北アメリカ、オス トラリアやニュー ジーランドで雑草 化。	1940年渡来、北海道-九州 の一部に帰化。	0.8m、一 年草	海岸の裸地や海岸埋立地に群 生。	本種の利用に関する情報は得られ なかった。		砂浜での回答は外来ハマアカザ 類、別学名 <i>A. hastata</i> 、	専門家:C砂浜 5、塩湿、河 川:8.14.24	便覧、写真 図鑑、Ylist、 雑化植物、 世雄、 GCW					
117	78	メギ	ヒイラギナンテン	<i>Berberis japonica</i>	分布拡大期 ~まん延期	その他 の総合 対策外 来種				都市近郊の森林林 床												中国-ヒマラヤ原 産。イギリスやオ ーストラリアで雑草 化している。	1681-1688年に庭園木として 渡来。本州の一部で逸出。	3m、常 緑低木	実生、挿木などで繁殖。半日 陰地で良く育ち、土質を選ば ない。都市近郊の二次林に逸出 している。	本属では日本で最も広く栽培され ている。庭園や公園に普通に植栽。 種子から、いくつかの県 で影響が危惧されている。		河川でやや増加傾向にあり、半日 陰を好むこと等から、雑木林への 影響が危惧されている。このよう な環境へ侵入するおそれのある 場所へは、持ち込みを行うべき ではない。	別学名は <i>Mahonia japonica</i> 、近縁 種のセイヨウヒイラギナンテン <i>M. aquifolium</i> はヨーロッパで侵略 的な植物とされている。鳥が種子 を散布することから、いくつかの 県で影響が危惧されている。	専門家:雑木 11、河川: 3.9.15	便覧、有 用、木本 、樹木 、園芸事 典、JF、GCW、 IPSW、日本 造園学会、 服部(1996)				
118	93	ケシ	アツミゲシ	<i>Papaver somniferum</i> ssp. <i>setigerum</i>	分布拡大期 ~まん延期	その他 の総合 対策外 来種																北アフリカ原産で 世界の各地に帰 化。	1964年頃に渡来、関東以南 、九州、四国で逸出。	0.8m、越 年草	線路や道路に沿った空地に散 発的に生える。	花が綺麗なものでって栽培される。		本種の栽培は麻薬取締法で規制 されている。不正栽培または自 生しているけしを発見した場合は 、各地方厚生(支)局、麻薬取締 部(支所)、都道府県麻薬主管課、 保健所、警察署へ連絡する。	麻薬取締法の対象種、ケシ <i>P. sommiferum</i> と共通点が多く、同 種の亜種として扱われることも ある。別学名 <i>Papaver setigerum</i> 、	対策:H20<4、 各県、千葉、広 島、愛媛、河 川:0.1,3	世雄(母 種)、便覧、 写真図鑑、 雑化植物、 西田委員、 Ylist				
119	95	アブラナ	ハルゲキヤマガラ シ(セイヨウヤマガ ラシ)	<i>Barbarea vulgaris</i>	分布拡大期 ~まん延期	その他 の総合 対策外 来種		旧要注 意	亜高山帯、河川敷													ヨーロッパ、アジ ア、オーストラリア、 北アメリカなどに広 く分布し、原産地は 不明。	明治時代末年に渡来、1960 年頃に野生化、北海道、本 州、四国、九州に分布。	0.9m、越 年草- 短命な 多年草	川岸、用水路端、畦畔、牧草 地、畑地、水田、荒地、道端の ほか、山地の林道沿いにもみ られる。冷涼で日当たりがよ く、湿った肥沃地を好む。標高 1800m以上の亜高山帯に生育 している事例もある。	本種の利用に関する情報は得られ なかった。		愛知県では、現在のところ自然 生態系に大きな影響を与えるほ どは生育していない。標高が 高い地域にも侵入しているため、 自然性の高い環境への影響が懸 念される。	要注 意、W100:日本、 村 中:B、6、対 策:H20<4、 H23.2、専門 家:河原30、 各県、青森、 河川: 18.39.44	世雄、外 来生物、便 覧、雑化植 物、写真図 鑑					
120	95	アブラナ	セイヨウカラシナ (カラシナ)	<i>Brassica juncea</i>	分布拡大期 ~まん延期	その他 の総合 対策外 来種				河原												西アジア原産、温 帯を中心に分布 し、熱帯の一部 まで広がる	奈良時代から平安時代初期 頃に中国から渡来したらしい が、戦後分布を広げているの はヨーロッパ、北アメリカから 入ったものと考えられている。 北海道、本州、四国、九州、 琉球、	1.5m、一 年草	河川敷、堤防、畑地、樹園地、 牧草地、路傍、荒地などに生 育。日当たりのよい温暖地を好 む。肥沃地ほど生育が良い。 関西地方の河川敷などに大群 落がある。	奈良時代から平安時代初期から 栽培される。野菜として栽培さ れるカラシナの原種で、様々な 品種が育成されている。種子か らはカラシ油がとれ、良質の 薬源植物である。中国では薬 用とされる。		群馬県では太い根が堤防に深く 食い込み、堤防の強度低下を引 き起こす。アブラナ <i>B. rapa</i> とク ロガシナ <i>B. nigra</i> の合わせた複 倍体。多量に摂取すると中毒の 原因となる物質を含む。アレロ パシー作用がある。広島では特 産野菜との交雑を防ぐために駆除、	村中・C、 対 策:H23.1、 専門家:河原37、 原28、各県、 埼玉、愛媛、 群馬、河川: 44.76.80	世雄、便 覧、雑化 植物、有 用、園芸 事典、JF					
121	95	アブラナ	オニハマダイコン	<i>Cakile edentula</i>	分布拡大期 ~まん延期	その他 の総合 対策外 来種				海岸砂浜												北アメリカ東岸中 北部原産。オース トラリア等で雑草 化。	1982年渡来、北海道、本州の 一部で帰化。	高さ 50cmの 一-二 年草	海岸砂丘に生える。	海外では、多肉質の茎葉を食用に する。		青森県では、在来種と競合してい る様子が見られない。千葉県で は生育量は少ないとされている。 絶滅危惧種のイソスレのような砂 丘地帯に生える。京都、利尻島 などで駆除。裸地砂浜の地表を利 用する海浜性昆虫等への植被の 影響が懸念。	専門家:砂浜 7、各県、青森、 千葉、河川: 7.8.15	便覧、雑化 植物、浅井 (1993)、GC W、藤井委員					

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案)(パブリックコメント版) <植物>
【国外由来の外来種】

資料 2 - 2

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着段階	カテゴリー	対策優先度の要件		特定外来種/旧要注意	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目										重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	原産地や分布	日本での分布	形態	生育環境など	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
							被害の深刻度	実効性・実行可能性				定着可能性		生態系被害		分布拡大・拡散																			
												生物	輸入	競合	交雑	変異	散布	繁殖	気候	永続															
122	102	バラ	ピラカンサ類	<i>Pyracantha</i> spp.	分布拡大期 ~まん延期	その他 の総合 対策外 来種				河原の固有種の生育地														ヨーロッパ東南部からアジアにかけて6種が自生。トキワサンザシP. coccineaは南東ヨーロッパ-小アジアに分布。タチバナモドキP. angustifoliaは中国原産。ニュージーランドで帰化。アフリカ南部、オーストラリア、ハワイで侵略的。ヒマラヤトキワサンザシP. crenulataはヒマラヤ原産。ニュージーランドで帰化。アフリカ南部やオーストラリアで侵略的。	トキワサンザシとタチバナモドキは明治時代に渡来し、本州と九州の一部で逸出。ヒマラヤトキワサンザシは昭和初期に渡来し、本州の一部で逸出。	2-6m、常緑低木	草原、荒地、岩の多い尾根、川岸に生育。耐寒性、耐暑性があり、日当たりさえ良ければ土壌を選ばない。一度定着すれば、耐陰性もある。萌芽により急速に広がる。日本の気候条件下で良く育つ。	花だけでなく果実も美しいので、生垣、庭園樹、鉢物用樹として栽培される。種間雑種から育成された多くの園芸品種がある。雑種の稔性は高い。	河川で増加傾向にあり、丈夫な性質で、鳥により種子が散布されることから、河原の植物への影響が危惧されている。こうした環境へ侵入するおそれのある場所では、利用を控える等の配慮が必要である。	河川ではトキワサンザシとタチバナモドキ、その他ヒマラヤトキワサンザシも逸出。実生や挿し木で増やす。刺がある。	専門家:河原 河川: 7,14.37, 7,27.44	便覧、樹木、帰化植物、有用、園芸事典、IPSW			
123	103	マメ	エニシダ(エニスダ)	<i>Cytisus scoparius</i>	分布拡大期 ~まん延期	その他 の総合 対策外 来種				河川敷、海岸														ヨーロッパ原産。アフリカ南部、アジア、オーストラリア、北アメリカ、ハワイなどに分布。ニュージーランド、合衆国西部で侵略的。	園芸植物として江戸時代に渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球で逸出帰化。	3m、常緑低木	道路の法面や宅地造成による新開地などに生える。海外では、草地、荒地、氾濫原、海岸の低木林、硬葉樹林に生育する。	様々な園芸品種が、観賞用に栽培されている。緑化植物として早期緑化(崩壊地やのり面等の緑化)の観点から非常に優れたことから、利用されている。	海外で侵略的な外来種とされ、種子が車両、水、鳥によって散布され、急速に分布を拡大することから、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	影響は、イタチハギとほぼ同等と恐われる。棘はない。海外では道路に沿って広がることから、種子が車両に付着して散布されると考えられる。種子は水や鳥により散布される。種子の寿命は長い。	海外:ISSG	便覧、帰化植物、環境省、勝山委員、JF、有用、IPSW			
124	103	マメ	アレチヌスビトハギ	<i>Desmodium paniculatum</i>	分布拡大期 ~まん延期	その他 の総合 対策外 来種				河原、里草地														北アメリカ東南部原産。	1940年に大阪で確認。北海道、本州、四国、九州、琉球。	1m、多年草	荒地、道端、市街地、空地、攪乱地に広がる。関東以西に多い。	本種の利用に関する情報は得られなかった。		一度侵入されると、頑丈な根茎のため、駆除が困難。別学名 <i>Hedysarum paniculatum</i> 、付着しやすい果実で、種子の分散能力が高い。河川でも増加傾向にある。	対策:H23-1、各県:京都・広島 河川: 21,49.57	便覧、写真図鑑、勝山委員、帰化植物			
125	105	カタハミ	オオキバナカタハミ(キイロハナカタハミ)	<i>Oxalis pes-caprae</i>	分布拡大期 ~まん延期	その他 の総合 対策外 来種				落葉樹の林床														南アフリカ原産。ニュージーランド、アメリカ合衆国、アジアに分布。ヨーロッパ南部、オーストラリア、合衆国西部で侵略的。	1890年代に入り、1961年に帰化が確認。関東-琉球で逸出帰化。	0.2m、多年草	森林、草原、川岸、海岸、畑地、庭、牧草地、樹園地、荒地などに生育。日当たりが良い、肥沃地を好む。鱗茎で繁殖。地中海沿岸の海岸地域で非常に多くみられる。冬に繁茂し、耐寒性がある。	観賞用に栽培される。	海外で侵略的な外来種とされ、本州太平洋側の雪の降らない地域で明るい落葉広葉樹林に侵入するおそれがあるため、こうしたおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	じわじわと広がっている。一度入り込むと駆除が難しい。家畜に有害。	海外:ISSG	世雑、便覧、写真図鑑、勝山委員、IPSW、園芸事典			
126	109	トウダイグサ	ナンキンハゼ	<i>Triadica sebifera</i>	分布拡大期 ~まん延期	その他 の総合 対策外 来種				照葉樹林														中国大陸の中南部の暖帯から亜熱帯原産。台湾にも広く野生化。アフリカ、アジア、ヨーロッパ、北アメリカに分布。	園芸植物として江戸時代に渡来。関東-琉球で逸出帰化。	15m、落葉(熱帯では常緑)高木	自然林、植林地、草原、攪乱地、湿地に生育する。土壌を選ばないが、排水の良い肥沃土壌で生長がきわめて早く、陽光を好む。関東以南の暖地に適する。様々な環境への耐性がある。	庭木、公園樹、街路樹として植栽。盆栽にも利用。種子の油脂は有毒だが、ろうそく、せっけん、薬用に利用。	海外で侵略的な外来種とされており、鳥や水により種子が散布され、土壌環境にも影響する。日本でも河川で分布を拡大しており、草原や雑木林等への影響が懸念されている。そのため、こうした環境に侵入するおそれのある場所や自然水域の周辺では、利用を控える等の配慮が必要である。	繁殖は実生で行う。別学名 <i>Sapium sebiferum</i> 、急速に分解する葉はタンニンを生産し、土壌中の窒素やリンを増加する。奈良公園春日山原始林で問題。シカが食べないため、今後増加する可能性が高い。	村中:C、専門家:草原23、雑木10、各県:兵庫、河川: 23,50.64、海外:ISSG	便覧、樹木、有用、園芸事典、JF、奥川、中坪(2009)、MAESAKOら(2007)、服部			
127	156	ウコギ	カミヤツデ(ツウウ(通草)、ツウダツボク(通脱木))	<i>Tetrapanax papyrifer</i>	分布拡大期 ~まん延期	その他 の総合 対策外 来種				河川敷や林縁														中国南部、台湾原産。オーストラリア、ニュージーランド、合衆国で雑草化。	1935年以前に渡来。関東-九州、四国、琉球で逸出、帰化。	5m、常緑低木	湿潤な土壌を好む。河川敷などで繁茂。関東地方では寒さで傷んで落葉低木となる。	日本では暖地に観賞用に栽培され、幹の髄は通草紙として造花の材料にされた。薬用にも利用される。	鳥により種子が散布され、河川敷等で繁茂。小型の在来種を被除したり、景観的にも問題になっている。古代ギリシアの処刑の毒として利用された。本種が市販されているとの情報は得られなかった。	各県:愛媛 2,2.4、河川: 2,2.4	便覧、写真図鑑、有用、JF、園芸事典、Ylist、GCW				
128	157	セリ	ドクニンジン	<i>Conium maculatum</i>	分布拡大期 ~まん延期	その他 の総合 対策外 来種				旧要注意														ヨーロッパ原産。南北アメリカ、オーストラリア、アジアに分布。	1959年渡来。北海道、本州の一部で帰化。	2m、一年草	畑地、牧草地、路傍、荒地などに生育。	海外では、古くから薬用植物として利用されたが、現在は使用されない。古代ギリシアの処刑の毒として利用された。本種が市販されているとの情報は得られなかった。	薬用等に栽培する場合には、逸出したものが人や動物に誤って摂取されることのないよう、適切に管理する必要がある。	有毒植物で、家畜にも影響。野外に生育しているものを、山菜のシヤク <i>Anthriscus sylvestris</i> 等と違って食べないよう注意する。	要注意、FAO:7、各県:千葉、河川:0,0.2	世雑、便覧、牧草、有用、(黒川委員)			
129	176	アカネ	オオファナムグラ	<i>Diodia teres</i>	分布拡大期 ~まん延期	その他 の総合 対策外 来種				旧要注意	海岸砂浜、河川敷													北アメリカ原産。アジア、オーストラリア、南アメリカなどに帰化。	1927年に渡来。本州、四国、九州で帰化。	0.5m、一年草	砂地がかつた道端、河川敷、海岸に多く、芝生、時に林縁に自然植生の一員のように生育。	本種の利用に関する情報は得られなかった。		鳥取砂丘で防除の対象となった。三重県明和町の大淀海岸でも駆除が行われた。	要注意、村中:B、対策:H20-4、専門家:河原28、各県:愛知、河川: 20,37.42	便覧、写真図鑑、外来生物			
130	178	ヒルガオ	アメリカネナシカズラ	<i>Cuscuta pentagona</i>	分布拡大期 ~まん延期	その他 の総合 対策外 来種				旧要注意	海浜植物の生育地													北アメリカ原産。アジア、ヨーロッパ。	1970年頃に渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球に帰化。	一年草、つる性の寄生植物	畑地、樹園地、牧草地、道端、荒地、河原、海浜、栽培植物	本種の利用に関する情報は得られなかった。		愛知県では希少種のハマネナシカズラが生育するハマゴウ群落に侵入している。海浜の植物に影響がある場所では駆除が必要。	要注意、7 対策:H20<4、各県:愛知・京都・広島・愛媛・河川: 48,89.90	世雑、便覧、外来生物			
131	178	ヒルガオ	ホシアサガオ	<i>Ipomoea triloba</i>	分布拡大期 ~まん延期	その他 の総合 対策外 来種				旧要注意	海浜植物の生育地													熱帯アメリカ原産。南北アメリカ、アフリカ、アジア、オーストラリアなど、温帯-熱帯に分布し、特に熱帯-亜熱帯に多い。	1945年以降に渡来。本州、四国、九州、琉球、小笠原に分布	一年草、つる植物	畑地、樹園地、路傍、荒地などに生育する。日陰に対する耐性もある。	本種の利用に関する情報は得られなかった。		分布の中心は九州や東海で、大豆作で甚大な被害が生じている。農耕地から非農耕地への拡散も著しい。作物への侵入による品質低下も著しい。	村中:C、河川: 8,33.46	世雑、雑草、便覧、黒川委員、写真図鑑			
132	180	クマツツラ	アレチハナガサ類(アレチハナガサ、ダキバアレチハナガサ、ヤナギハナガサ(サンジャクパーベナ)、ヒメクマツツラ(ハマクマツツラ))	<i>Verbena</i> spp.(V. brasiliensis, V. incompta, V. bonariensis, V. litoralis)	分布拡大期 ~まん延期	その他 の総合 対策外 来種				河川敷の湿地や草原														南北アメリカ原産。熱帯-温帯。	1930年頃渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球。	2m、多年草	市街地の道端、荒地、河川敷、草原、湿地、裸地、礫地に生える。	ヤナギハナガサ(サンジャクパーベナ)は観賞用に栽培される。	観賞用に栽培されたものが、河川敷等で分布を拡大していることから、こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	近年増えているのはダキバアレチハナガサだが、アレチハナガサ等として記載されている文献もある。愛知県では、絶滅危惧種が多く生育する河川敷の低湿地にも侵入するおそれの問題とされた。奄美地域では林道沿いで増加。	村中:C、各県:広島・愛知・宮崎・奄美、河川: アレチハナガサ 26,67.74、ヤナギハナガサ 23,52.75 海外:ISSG	便覧、写真図鑑、帰化植物、世雑			

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案)(パブリックコメント版) <植物>
【国外由来の外来種】

資料 2 - 2

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着段階	カテゴリー	対策優先度の要件		特定外来種/旧要注意	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目							重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	原産地や分布	日本での分布	形態	生育環境など	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
							被害の深刻度	実効性・実行可能性				定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散															
												生物	輸入	競合	交雑	気候	気候	気候														
144	203	キク	コウリンタンボポ(エフデタンボポ)	<i>Hieracium aurantiacum</i>	分布拡大期 ~まん延期	その他 の総合 対策外 来種	/	/		寒冷地や亜高山帯 の自然草原		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	ヨーロッパ原産、西 アジア、北米にか けて広く分布。	明治中期に渡来。戦後帰化し た。北海道~九州で逸出帰 化。マット状に群生する。北海 道にはサハリンから入った。	0.5m. 多 年草	原産地では高山に生える。山 地の草地、畑地、牧草地、芝 地、路傍、荒地などに生育。乾 いたところに多く、土壌pHの低 い所にも生育する。雪や霜に 耐えられる。酸性の強くない肥 沃地では、他の雑草との競争 力が弱い傾向にある。	園芸植物として渡来。花壇やロック ガーデンに植えられる。	海外で侵略的な外来種とされ、風 により種子が散布され、貴重な生 態系である高山帯でも生育でき る。そのため、こうした環境に侵入 するおそれのある場所には、持ち 込みを行うべきではない。	大雪山国立公園では山麓、林道 に侵入。特別保護地区への侵入 が懸念される。北米の一部では 強さ雑草になっている。	各県:北海道、 河川:5.6.6、 海外:ISSG	世雄、便 覧、帰化植 物、環境 省、園芸辞 典、有用、 JF		
145	203	キク	フランスギク	<i>Leucanthemum vulgare</i>	分布拡大期 ~まん延期	その他 の総合 対策外 来種	/	/		亜高山帯		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	ヨーロッパ原産、ア ジア、南北アメリカ 等。温帯に多く、一 部は熱帯にも広が り、世界的にみら れる。	江戸時代末期に渡来。北海 道、本州、四国、九州で逸 出、帰化。特に北海道に多 い。	0.8m. 多 年草	畑地、牧草地、路傍、空地に野 生化する。近年は高山にまで 侵入しつつある。	園芸植物として渡来。庭園で栽培。	海外では畑地の雑草となってい る。日本では高山地域にまで侵入 しているため、各地の国立公園等 で駆除の対象となっている。こ うした環境に侵入するおそれのある 場所へは、持ち込みを行うべきで はない。	別学名 <i>Chrysanthemum leucanthemum</i> 、マーガレット(モク シユンギク) <i>Argyranthemum frutescens</i> と混同されている場合 あり、種子と地下茎で繁殖する。 芝生種子等に混入もある。種子 の生産量は多く、寿命が39年に 及ぶとの報告がある。各地の国立 公園で駆除が行われている。	村中:B、対 策:H20.6、 H23.1、専門 家:草原33、各 県:北海道、 河川:20.53.67	便覧、写真 図鑑、帰化 植物、JF、 Ylist、世雄		
146	203	キク	アラゲハンゴンソウ (キヌガサギク、ルド ベキア・ヒルタ、グ ロリオサ・デー ジー)	<i>Rudbeckia hirta</i> var. <i>pulcherrima</i>	分布拡大期 ~まん延期	その他 の総合 対策外 来種	/	/		湿原、自然草原		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	北アメリカ原産	1930年頃に渡来。北海道、本 州、四国、九州、琉球で逸 出、帰化。	0.9m. 二 年草	造成地、法面、牧場等に生育。 全国の山岳道路沿いにみら れ、北海道の原生花園やアボ イ岳の麓にも生育。	園芸植物として渡来。グロリオサ・ デージー 'Gloriosa Daisy' をは じめ、様々な園芸品種が利用され ている。	山岳道路沿いに分布を拡大し、鋪 路湿原等の生物多様性の保全上 重要な地域で駆除の対象になり、 草原の在来植物との競合、駆逐 が危惧される。こうした環境に侵 入するおそれのある場所へは、持 ち込みを行うべきではない。	オオハンゴンソウの近縁種。アボ イ岳の麓で採集、報告された。乗 鞍など各地の重要な地域で対策 が行われている。牧草種子または 家畜飼料に混入して分布を拡大 したとされる。	対策:H20<4、 専門家:草原 27、河川:1.0.6	便覧、写真 図鑑、JF、 有用、園芸 事典		
147	203	キク	オオオナモミ	<i>Xanthium canadense</i>	分布拡大期 ~まん延期	その他 の総合 対策外 来種	/	/	旧要注意	オナモミの生育地 や河川敷		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	メキシコ原産、温帯 ~熱帯に分布。	1929年渡来。北海道、本州、 四国、九州、琉球に帰化。	2m. 一 年草	畑地、樹園地、牧草地、路傍、 荒地等に生育し、飼料畑で問 題になっている。	JFにはオナモミ <i>Xanthium strumarium</i> が掲載されている。オナ モミは薬用や食用にされること がある。	オナモミ(絶滅危惧 類(VU))と 競合、駆逐、交雑。埼玉ではキ タミノウ(絶滅危惧 類(VU))の 生育地を圧迫。	要注意、 W100:日本、 村中:B、FAO: 7、各県:埼玉 ・愛知・京都・ 広島・愛媛、 河川:61.97.100	世雄、雑 草、便覧、 写真図鑑、 JF、外来生 物、有用			
148	211	ユリ	シンテッポウユリ (新鉄砲ユリ、タカ サゴユリ)	<i>Lilium x formolago</i>	分布拡大期 ~まん延期	その他 の総合 対策外 来種	/	/		絶滅危惧種のウケ ユリなど、交雑のお それのあるユリ属 の生育地周辺		/	/	/	/	/	/	/	/	/	テッポウユリ <i>L. longiflorum</i> とタカ サゴユリ <i>L. formosanum</i> の交 雑種由来。'タカサ ゴユリ' と呼ばれて いるものの中には 雑種由来の本種が 含まれると考えら れる。	本州、四国、九州で逸出帰 化。タカサゴユリは1924(大正 12)年に降着種子で導入され、 切り花用に栽培されたが、シ ンテッポウユリが普及するに つれて廃れた。シンテッポウ ユリは1939年頃に作出され、 1970年代から増えしてきた。	1.5m. 多 年草	路傍、道路の法面、石垣の隙 間などに生育。タカサゴユリ は、原産地の台湾では開けた 草地から高山まで広く分布。群 馬県ではタカサゴユリが山間 部へ分布を広げつつある。	シンテッポウユリ、タカサゴユリ ともに球根が流通している。	花が美しいため駆除の対象にな りにくい。繁殖力が強く、分布を 拡大する傾向にある。近縁種の ユリ属の中には、ウケユリ <i>Lilium alexandriae</i> などの絶滅危惧種が 多く含まれ、これらに対する遺伝 的攪乱が危惧される。こうした種 類と交雑する可能性のある場所 へは、持ち込みを行うべきでは ない。	希少種のウケユリが生育する 電線への侵入が危惧される。 JFや園芸事典では学名 <i>Lilium x formolago</i> 、タカサゴユリは種子 繁殖が旺盛で、自家受粉で容易 に結実して多数の種子がとれる。 種子は軽いので遠方に散布され やすい。	対策:H20<4、 各県:広島・ 愛媛・高松、 河川:0.1.3、 9.24.24	便覧、帰化 植物、Ylist、 園芸事典、 JF、比良松 (2012)			
149	211	ユリ	ハナニラ(セイヨウ アマナ)	<i>Iphion uniflorum</i>	分布拡大期 ~まん延期	その他 の総合 対策外 来種	/	/	旧要注意	里草地		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	アルゼンチン原 産。世界各地で観 賞用に栽培。	明治年間に花卉として導入。 本州、四国、九州。	0.2m. 多 年草	旺盛に繁殖するため、植えられ たものが各地で逸出して、帰化 状態になった。耐寒性がある。	様々な園芸品種が流通し、花壇等 に植えられている。	別学名 <i>Brodiaea uniflora</i> 。増殖は 小球を母球からはずして行 う。オーストラリアでは環境雑草と されている。	河川:2.3.10	便覧、写真 図鑑、藤井 委員、Ylist、 JF、有用、 GCW			
150	217	アヤメ	ヒメヒオウギスイ セン(ヒメヒオウギ スイセン、モントブレ チア)	<i>Crocossmia x crocosmiflora</i>	分布拡大期 ~まん延期	その他 の総合 対策外 来種	/	/		河川敷、海岸や山 地の草原、二次林 林床		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	南アメリカ原産。フ ランスで19世紀に ヒオウギスイセン <i>C. aurea</i> と、ヒメト ウギ <i>C. pottsii</i> と 交雑によって作ら れた園芸品種群。 アメリカやアジアに 帰化。	明治中期(1890年頃)に渡 来。北海道、本州、四国、九 州で逸出帰化。	0.8m. 多 年草	花壇の付近や腐屋の庭跡など 各地で逸出。海岸の草地など に大群落をなして野生化。極め て強健で、ときには荒地や山 野で半野生状態になっている。 耐寒性は強い。	様々な園芸品種が、花壇等で観賞 用に栽培される。	別学名 <i>Tritonia x crocosmiflora</i> 。 ハウイでは一般的な雑草とされ る(GAWW)。オーストラリアやニュー ジーランドでは環境雑草とされ る。こうした影響を及ぼすおそれ のある場所への持ち込みは行 うべきではない。	各県:佐賀、 河川:35.68.76	便覧、帰化 植物、Ylist、 JF、園芸事 典、GAWW、 naturlant3 752			
151	224	イネ	メリケンカルカヤ	<i>Andropogon virginicus</i>	分布拡大期 ~まん延期	その他 の総合 対策外 来種	/	/	旧要注意	雑木林、草地、河 川敷		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	北アメリカ原産、暖 帯~熱帯	1940(昭和15)年頃に、本 州(関東以西)、四国、九州。	多年草	畑地、樹園地、牧草地、路傍、 荒地などに生育。日当たりが 良く、土壌が乾いた所に多い。 酸性土壌や岩山にも生育。	海外では砂防や牧草に利用され る。日本での本種の利用に関す る情報は得られなかった。		要注意、 村中:C、対 策:H23.1、専 門家:草原45、 湿地10、各 県:栃木・埼玉 ・鳥取・広島・ 愛媛、河川: 44.81.93、海 外:ISSG	世雄、外 来生物、有 用			
152	224	イネ	ハルガヤ(スイート バーナルグラス)	<i>Anthoxanthum odoratum</i>	分布拡大期 ~まん延期	その他 の総合 対策外 来種	/	/		里草地や山地草原		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	ヨーロッパ~シベ リア原産。アフリ カ、アジア、オセ アニア、南北アメリ カ等。温帯に分布。 オーストラリア、南 米等で侵略的。	明治初年に入り、北海道~九 州、四国で逸出帰化。寒冷地 に多い。	0.7m. 多 年草	牧草地、放牧地、路傍、荒地、 草地、河原、林内に生育し、山 地にまでみられる。日当たりの 良い所を好み、土壌の種類を 選ばない。耐寒性、耐草性が あり、春先の生育が早い。	牧草として導入されたが、生産性は 低く重要視されていない。緑 化に利用される。甘みや香りを利 用したハーブとして流通、利用され ている。	海外で侵略的とされ、日本でも河 川等で分布を広げている。耐寒性 があり、山地にまでみられること から、自然性の高い草原へ侵入 が懸念される。こうした環境に侵 入するおそれのある場所への持 ち込みは、行うべきではない。	甘いクマリンの芳香がある。世界 的には牧草の雑草とされる。	村中:B、FA O:7、専門 家:草原40、各 県:青森・ 福島・山形・ 河川:28.62.70	世雄、便 覧、帰化植 物、花粉、 牧草、 IPSW、JF		
153	224	イネ	シロガネヨシ(パン バズグラス)	<i>Cortaderia selloana</i>	分布拡大期 ~まん延期	その他 の総合 対策外 来種	/	/				/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	南米(アルゼンチ ン)原産。アフリ カ南部に分布。ヨ ロッパ南部、オース トラリア、合衆国 西部で侵略的。	明治時代の中期に渡来。開 東、四国、琉球で逸出帰 化。	3m. 多 年草	海岸砂丘、攪乱地、荒地、低木 林、草原、川岸、水路、湿地に 生育。日本では庭園や道路沿 いに各地で栽培され、ときに逸 出する。東北、北海道での露 地越冬は不可能。	園芸品種を含めて流通、利用され ている。法面緑化への利用も確認 されている。切り花、ドライフラワー にも利用。	海外で侵略的な外来種とされ、風 による種子散布で分布を拡大し、 様々な環境に侵入して巨大な株 を作ることから、生物多様性の 保全上重要な地域に侵入するお それのある場所には、持ち込み を行うべきではない。	公園内で逸出したものが、管理上 の問題となっている。増殖は株分 けで行う。実生もできるが、花序 の大きさに変異が出やすい。葉 縁が鋭いので皮膚が切れること があり、生育場所はレクリエーシ ョン等に利用できなくなる。	海外:ISSG	便覧、写真 図鑑、小林 委員、園芸 事典、JF、 IPSW		
154	224	イネ	オオクサキビ	<i>Panicum dichotomiflorum</i>	分布拡大期 ~まん延期	その他 の総合 対策外 来種	/	/		湿地や河川敷		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	北アメリカ原産。南 アメリカ、ヨーロ ッパ、アジア、ニュ ージーランド等。温 帯を中心に亜熱帯 にまで広がる。	1927年に千葉県に入り、北海 道、本州、四国、九州、琉球 に分布。	1.0m. 一 年草	畑地、樹園地、牧草地、路傍、 荒地、河川敷、湿地に生育。日 当たりが良い。湿った所を好 む。水田周辺、道端などに普 通な雑草となっている。	1970年代には転換畑での飼料作物 として盛んに試作された。水田転換 畑に好適な草種とされる。生草、乾 草、サイレージに利用される。	海外で侵略的な外来種とされ、風 による種子散布で分布を拡大し、 様々な環境に侵入して巨大な株 を作ることから、生物多様性の 保全上重要な地域に侵入するお それのある場所には、持ち込み を行うべきではない。	関西の河川では、攪乱後に大群 落を形成して他植物を圧倒する。 湿地でも旺盛に生育することか ら、水田での雑草化が懸念され る。	村中:B、各 県:広島、河 川:63.105.107	世雄、写 真図鑑、粗 飼料、牧 草、藤井委 員		

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案)(パブリックコメント版) <植物>
【国外由来の外来種】

資料2 - 2

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着段階	カテゴリー	対策優先度の要件		特定外来種/旧要注意	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目										重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	原産地や分布	日本での分布	形態	生育環境など	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
							被害の深刻度	実効性・実行可能性				定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散																		
												生物	輸入	競合	交雑	変異	散布	繁殖	気候	永続															
155	224	イネ	キシウスズメノヒエ(カリマタスズメノヒエ)	<i>Paspalum distichum</i> var. <i>distichum</i>	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種	/	/	旧要注意	湿地や池沼														北アメリカ原産、暖帯～熱帯	1924年渡来、1945年以來急速に分布を拡大。本州、四国、九州、琉球。	0.5m、多年草	水田、溝、湿地、河川、水路、湖沼、ため池、砂浜に生育する。日当たりの良い所、肥沃な水湿地を好む。	かつて転換畑での飼料作物として試作されたことがある。近年の利用に関する情報は得られなかった。		水田の強害雑草。	要注意。村中・B、FAO: H23.2。専門家:水生31、各県:愛知・広島・愛媛、河川:43,72,79	世雄、便覧、写真図鑑、植物、牧草、角野			
156	224	イネ	セイバンモロコシ(ジョンソングラス)	<i>Sorghum halepense</i>	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種	/	/		河川敷、草原														地中海沿岸のアメリカ原産、温帯～熱帯	飼料植物として1943(昭和18)年に渡来。本州、四国、九州、琉球、小笠原。	2m、多年草	畑地、樹園地、牧草地、路傍、堤防、灌漑路の周辺に生育。温暖、湿潤、多雨地帯で日当たりの良い所を好む。	牧草として利用されることがあるが、若い茎葉や生育不良の新葉は青酸を含むことがあり、家畜が中毒を起すことがあるので注意が必要である。モロコシS. bicolorとの交雑が試みられ、耐寒性がある二倍体の多年草が牧草として育成されている。	世界的な強害草とされており、日本でも河川で分布を拡大し、草原に生育する在来種との競合、駆逐が危惧されている。牧草利用する際には、牧草地外への種子の逸出を防止するために、結実前に刈り取り、周縁部の草刈りを適切に行うとともに、利用しない種子については放置せずに適切に処分するよう努める。	若くない型をヒメモロコシ(ノギナシセイバンモロコシ) f. <i>muticum</i> といふ。群馬と「は」ノギナシセイバンモロコシ。世界的に知られた畑の強害雑草。	村中・B、FAO: H23.1。専門家:草履32、各県:埼玉・広島・群馬、河川:47,71,74,38,26。海外:ISSG	世雄、便覧、植物、写真図鑑、有用、園芸事典、JF、有用			
157	231	カヤツリグサ	アメリカカヤミズグサ	<i>Carex scoparia</i>	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種	/	/		湿地														北アメリカ原産	1986年に香川県丸亀市で採集。北海道(石狩川下流の湿地、勇払原野等)、本州の一部、香川で確認。	0.6m、多年草	湿地や湿った草地に生える。	本種の利用に関する情報は得られなかった。		その他:勝山委員	帰化植物。便覧、勝山委員				
158	57	タデ	ツルドクダミ(カシウ、何首烏)	<i>Fallopia multiflora</i>	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種	/	/																台湾原産、合衆国、ハンガリー	江戸時代(享保5(1720)年)に長崎を経由して江戸で栽培。北海道、本州、四国、九州で逸出。	木質つる性の多年草	市街地周辺の路傍や生け垣などに生える。	乾燥した塊根は何首烏(かじう)と呼ばれ、漢方薬として用いる。	台湾での圧倒的に旺盛な生育状況から、南西諸島に侵入した場合、生態系に多大な悪影響を与えることが危惧される。生物多様性の保全上重要な地域への持ち込みは行わない。	別学名 <i>Polygonum multiflorum</i> , <i>Pleuropteris multiflorus</i> .	その他:横田委員	便覧、帰化植物、写真図鑑、有用、園芸事典、Ylist, GCW			
159	58	ヤマゴボウ	ジュズサンゴ	<i>Rivina humilis</i>	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種	/	/		林床														北アメリカ南部から中央、南アメリカに分布。	明治時代後期に移入植物に侵入して小笠原の父島に侵入。沖縄へは復帰後観費用に導入。岡山、宮崎に分布	1m、常緑の多年草	小笠原では湿り気のあるやや暗い林内で純群落を形成。沖縄では庭園を中心に雑草化。	観賞用に流通し、栽培される。果期が長いので、温室内で鉢物とするか地植えにする。南米のロンビアでは染料を採取するために栽培される。	結実までの生長期が短い上に、果期が長く、鳥により散布されるため分布を拡大しやすい。小笠原では、在来の下層植生、林床の草本、シダ類を駆逐し、樹木の実生芽も抑制されている。生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある地域への持ち込みは行わない。	10～12で越冬、株元に落ちた果実は自然に良く発芽し、4～5カ月で結実する。鳥により種子が散布される。実生または挿し木でふやす。春に種子をまくと秋から冬に結実するので、一年草としても扱われる。	各県:小笠原	便覧、帰化植物、観賞、有用、園芸事典、JF、有用、園芸事典、GCW			
160	63	ツルムラサキ	ツルムラサキ	<i>Basella rubra</i>	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種	/	/																東南アジア原産ともされるが明らかではない。熱帯地域で広く栽培される。	明治時代、食用植物として渡来。本州(関東以西)、四国、九州、琉球、小笠原諸島、沖縄県の特産大東諸島、宮古島で蔓延している。	長さ4m、つる性の多年草(日本では一年草)	人家の近くで見られる。高温多湿を好む。発芽適温は25℃。十分日の当たる。排水の良いところでは土質をあまり選ばない。性質は強健。病気や害虫はほとんどなく栽培は容易とされる。	日本では、観賞用に鉢植えや垣根として利用されており、日本でも健康野菜としても販売される。製紙用の糊、染料、薬用にも利用。	熱帯地域が原産で、日本でも大東諸島、宮古島で蔓延していることから、生物多様性の保全上重要な地域への持ち込みは行わない。	花が白色。葉がやや狭長になる系統 <i>B. rubra</i> ("Rubra") や、葉が大きく基部が心形になる系統 <i>B. cordifolia</i> が別種とされることもあるが、種を分けるような違いはない。	その他:横田委員	便覧、帰化植物、有用、園芸事典、JF			
161	119	ムクロジ	コフウセンカズラ	<i>Cardiospermum halicacabum</i> var. <i>microcarpum</i>	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種	/	/																汎熱帯原産。基本種のフウセンカズラ <i>C. halicacabum</i> は北アメリカ南部原産	渡来年代不明だが1961年には記載がある。神奈川、鹿児島、琉球で逸出帰化。	つる性の一年～多年草	沖縄県(特に大東諸島、宮古島)では、かなり蔓延している。基本種のフウセンカズラは日当たりと排水の良い場所なら土質は特に選ばない。	基本種のフウセンカズラ <i>C. halicacabum</i> は流通、販売され、観賞用に栽培される。フウセンカズラは、海外では食用や薬用とされる。	果実が径1.5cmたらずの変種として基本種のフウセンカズラからは区別されている。フウセンカズラは海外では環境雑草等とされている。性質は強健、栽培が容易、病気、害虫はほとんどない。	その他:横田委員	便覧、写真図鑑、JF、有用、園芸事典、園芸委員、横田委員、GCW				
162	132	アオイ	フヨウ	<i>Hibiscus mutabilis</i>	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種	/	/		サキシマフヨウの生育地周辺														中国中部原産。	古くから栽培され、本州(関東以西)、四国南部、九州南部、琉球、小笠原諸島で逸出。	4m、落葉低木	日当たりの良いところを好み、海岸に近い谷沿いの林縁に生育する。	観賞用に流通、栽培されており、庭木、公園樹、街路樹、鉢植え等に利用される。	日本固有種のサキシマフヨウとの交雑が確認されていることから、サキシマフヨウの自生地周辺への持ち込みは行わない。	各県:奄美	便覧、木本、JF、園芸事典、樹4				
163	138	トケイソウ	クサトケイソウ(バッシュフローラ・フォエティダ、ワイルドバッシュフルーツ)	<i>Passiflora foetida</i>	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種	/	/																南アメリカ原産、熱帯～亜熱帯に帰化。	渡来年代不明。千葉、琉球(沖縄島、大東島)、小笠原(硫黄島)で逸出。特に大東諸島、宮古島で蔓延。	一年～多年草、つる植物	路傍や河原等の攪乱地に生育。湿った場所を好む。	果実を食用したり、薬用にするために栽培される。アフリカやマレーシア地域では地被植物としても利用される。日本でも流通、販売されている。	熱帯地域が原産で、日本でも大東諸島、宮古島で蔓延していることから、生物多様性の保全上重要な地域への持ち込みは行わない。	腋毛の量や、和名の由来である臭気の変異が多い。	海外:ISSG、その他:横田委員	便覧、写真図鑑、横田委員、有用、園芸事典			
164	144	フトモモ	フトモモ	<i>Syzygium jambos</i>	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種	/	/		山地の渓流沿い														イラン、インド、インド洋諸島原産。アフリカ、北アメリカ、南アメリカ、インド洋諸島、太平洋諸島に分布。温帯域にも分布を広げつつある。	1935年以前に渡来。琉球(屋久島、種子島)以南で野生化。	10m、常緑高木	自然林、植林地、河川敷、海岸の低木林に生育。日本では、低地～山地の渓流沿いの水辺に生える。	沖縄には果樹として古い時代に導入されたが、食味が淡白であることからあまり普及しなかった。現在は、観葉植物として流通、栽培される。	海外で侵略的な外来植物とされ、日本でも琉球の山地の渓流沿いにも侵入している。こうした場所には、生物多様性の保全上重要な地域の中での、希少種も生育する環境である。こうした環境に侵入するおそれのある場所への持ち込みは行わない。	海外:ISSG	便覧、写真図鑑、有用、琉球花木、IPSW、JF、園芸事典				
165	180	クマツツラ	ナガボソウ属	<i>Stachytarpheta</i> spp.	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種	/	/																・チリメンナガボソウ <i>S. dichotomaha</i> 1967年渡来。琉球で帰化。 ・インドナガボソウ(ミズイロナガボソウ) <i>S. indica</i> は1967年に琉球に帰化。 ・フトボナガボソウ <i>S. jamaicensis</i> は戦後、琉球と小笠原に帰化。 ・ナガボソウ(ホナガソウ) <i>S. urticifolia</i> は1938年以前に琉球、小笠原に帰化。	南アメリカ原産、南北アメリカ、アジア、オーストラリア等の熱帯～亜熱帯、熱帯アフリカで侵略的。	1～2.5m、多年草	路傍、荒地、畑地、牧草地、放牧地、森林、林縁、攪乱地等に生育。乾いた所から多少湿った所まで土壌適応性が大きい。	国内では、種小名が不明なものが流通している。フトボナガボソウは、ジャワ等で若芽を食用に、中国等では薬用に利用される。	海外で侵略的な外来植物とされ、国内でも生物多様性の保全上重要な小笠原諸島や南西諸島で、問題となりつつある。このような種ではナガボソウ <i>S. cayennensis</i> (<i>S. australis</i> , <i>S. dichotomaha</i>)、種子繁殖が容易で、生育が早く、群生するため、放置すると雑草害が大きい。	対策:H20<4、専門家:海洋島23、各県:小笠原・奄美、その他:藤井委員	世雄、写真図鑑、便覧、有用、Ylist, JF, IPSW				
166	189	キツネノマゴ	ヤナギバレイソウ(ムラサキセハナビ、ルエリア・フリトリアナ、リュエリア、メキシコペチュニア)	<i>Ruellia brittoniana</i>	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種	/	/		湿地や河原														メキシコ原産、合衆国のフロリダ州やハワイで侵略的。	1974年頃、アメリカ軍により非意図的に沖縄本島に持ち込まれた。沖縄、九州、四国の南部で雑草化。	1.0m、多年草	河原や空地等の裸地や道路の舗装の隙間に生育する。湿気状態でも育つなど適応性幅が広い。日当たりの良い場所で周年開花する。	観賞用の栽培が増え、様々な花色の園芸品種が流通、栽培される。	海外で侵略的になっている地域があり、日本でも南西諸島の水湿地で繁茂している。環境への適応性も大きいことから、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある地域への持ち込みは行わない。	各県:奄美	便覧、写真図鑑、藤井委員、JF、園芸図鑑、GCW、USDA				

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案)(パブリックコメント版) <植物>
【国外由来の外来種】

資料2 - 2

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着段階	カテゴリー	対策優先度の要件		特定外来種/旧要注意	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目										重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	原産地や分布	日本での分布	形態	生育環境など	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等					
							被害の深刻度	実効性・実行可能性				定着可能性		生態系被害		分布拡大・拡散																								
												生物	輸入	競合	交雑	変異	散布	繁殖	気候	永続																				
167	203	キク	カコウアザミ、ムラサキカコウアザミ(オオカコウアザミ)、アゲラタム(総称名)	<i>Ageratum conyzoides</i> , <i>A. houstonianum</i>	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	カコウアザミは畑地、道端、空地、樹園地、牧草地、休耕地、荒地に生える。耐寒性はないので温帯では一年草であるが、熱帯では多年草的になり周年開花する。土壌の乾湿や肥沃度、日照条件等に対する適応性が大きく、東アフリカでは3000mの高地にも生える。ムラサキカコウアザミも熱帯・亜熱帯地域で同様に雑草となっている。	カコウアザミは古(から花壇や切り花用に栽培される。葉草として利用される。ムラサキカコウアザミはより花が大きく香り良いため様々な園芸品種が観賞用に栽培される。アゲラタム名前で流通、販売されている。	海外で侵略的な外来種とされ、日本でも南西諸島や小笠原諸島で野生化している。生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある地域へは持ち込むべきではない。	奄美はムラサキカコウアザミ、ISSG。専門家。対策はカコウアザミ。冠毛の基部に先が針状の刺があり、動物の毛、人の着物などで乗果が散布される。	対策:H20<4>18、各県:奄美、海外:ISSG	世雄、便覧、写真図鑑、有用、JF、園芸事典、帰化植物
168	203	キク	タチアウキセンダングサ(オオバナセンダングサ)	<i>Bidens pilosa</i> var. <i>radiata</i>	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	熱帯アメリカ原産。世界の暖帯-熱帯に広く分布。	江戸時代(弘化年間(1844-48年))に渡来。本州-九州、琉球、小笠原で帰化。	道端、畑地、空地等いたるところに生育。	近年、健康食品等として宮古ビデンス・ピロサが栽培、販売されている。その他にビデンスの名前で様々な園芸品種が流通、栽培されている。	本種を含む <i>B. pilosa</i> は、世界的にも侵略的になっている種類である。その中でも本種は、南西諸島や小笠原諸島といった生物多様性の保全上重要な地域で繁茂している。このような場所への持ち込みは行うべきではない。	南西諸島で繁茂しているのはオオバナセンダングサ <i>B. pilosa</i> var. <i>radiata</i> 。その他に、コセンダングサ <i>B. pilosa</i> var. <i>pilosa</i> 、シロバナセンダングサ <i>B. pilosa</i> var. <i>minor</i> がある。FAOと対策はコセンダングサ。専門家はアウキセンダングサ。広島はシロバナセンダングサとコセンダングサ、ISSGとPIERでは <i>B. pilosa</i> 。	要注意。W100:日本、村中:B、FAO:6、対策:H23:1、専門家:海洋島21、各県:愛知・奄美・広島、河川:15.40.52、48.71.83 海外:ISSG	雑草、便覧、写真図鑑、外来生物、園芸委員、有用、園芸事典、JF、琉球弧
169	203	キク	ヒマワリヒヨドリ	<i>Chromolaena odorata</i>	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	熱帯アメリカ原産。アフリカ、熱帯アジア、オーストラリア、太平洋諸島、マスカリン諸島に分布。	1980年に石垣島で確認。沖縄島にも分布。	畑地、樹園地、牧草地、道端、林縁、低木林、荒地、川岸などに生育。土壌の種類を問わず、日当たりの良い所を好む。	海外では観賞用に栽培される。インドでは魚を獲るための毒物に利用する。日本での本種の利用に関する情報は得られなかった。	海外の熱帯地域を中心に侵略的な外来植物となっており、日本でも南西諸島や小笠原諸島では大きな今脅威になる可能性がある。生物多様性の保全上重要な地域への持ち込みは行うべきではない。	南西諸島や小笠原では、大きな脅威になる可能性がある。別学名 <i>Eupatorium odoratum</i> で、ヒヨドリバナ属に分類されることもある。	要注意。W100:J/C/N、海外:ISSG	外来生物、園芸委員、有用、IPSW、世雄
170	203	キク	タワダギク	<i>Pluchea odorata</i>	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	沖縄では戦後帰化したのち、広範囲に広がり、貴重植物群落にまで侵入している。沖縄周辺の島でも見られるようになった。1968年に和名が名づけられた。奄美地域への侵入も危惧される。	当初、沖縄本島中部の日当たりの良い原野を中心に散在。現在では沖縄本島全域とその周辺の島でも見られるようになった。	海外では、ハーブティーとして利用される。日本での本種の利用に関する情報は得られなかった。	種子と根茎で繁殖。アレロパシー作用がある。種子は風、雨、動物、人間による。九州では果樹園や道端の雑草として問題になっている。	各県:奄美	便覧、写真図鑑、GAWW		
171	224	イネ	シマスズメノヒエ(ダリグラス)	<i>Paspalum dilatatum</i>	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	南アメリカ原産。北アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、アジア、オセアニア、太平洋諸島。	1915年小笠原で確認。本州、四国、九州、琉球、小笠原諸島。	畑地、牧草地、芝生地、路傍、溝、荒地、鉄道、川岸、土手に生育。湿った肥沃地を好む。耐干性、耐暑性があり、酸性土壌に適応する。	暖地型牧草で、乾草および放牧用に適する。日本で育成された品種もある。本州では第二次大戦後に緑化用に使われ、急速に増加した。	種子と根茎で繁殖。アレロパシー作用がある。種子は風、雨、動物、人間による。九州では果樹園や道端の雑草として問題になっている。	種子と根茎で繁殖。アレロパシー作用がある。種子は風、雨、動物、人間による。九州では果樹園や道端の雑草として問題になっている。	村中:C、各県:広島・奄美、河川:47.78.88、三	相飼料、便覧、写真図鑑、世雄、帰化植物
172	224	イネ	タチスズメノヒエ(ベイジーグラス)	<i>Paspalum urvillei</i>	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	南アメリカ原産。北アメリカ、アフリカ、オーストラリア、アジアなどに分布。	1958年福岡で確認。本州(関東以西)、四国、九州、琉球。	畑地、芝地、路傍、荒地、海岸埋立地、果樹園に生育。日当たりの良い湿った土壌を好む。発芽適温は30-35	本種の利用状況に関する情報は得られなかった。	鹿島、沖縄のサトウキビ畑の強毒雑草となっている。種子と根茎で繁殖。種子の形成量が多く、水、動物、人間により伝播。種子は休眠性を持つ。アレロパシー作用もある。株は冬枯れしないので、大株になると伐取が難しくなる。繁殖力が極めて強い。宮崎県では近年、椎葉村などの奥地にも広がっている。	村中:C、各県:広島・奄美、河川:19.42.64、海外:ISSG	世雄、雑草、便覧、写真図鑑、帰化植物	
173	224	イネ	ムラサキカタオススキ	<i>Saccharum formosanum</i> var. <i>pollinioides</i>	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	復帰後(1972年)に帰化。1976年に沖縄本島名護市二見の道路法面で採集された。発見された当時は数株だけの小群落であったが、沖縄本島中部以北に普通にみられるようになった。	台湾原産	日当たりの良い原野にみられる。北部山地では林道を介して侵入を上げつつあり、自然植生への影響が懸念される。	台湾では、時に栽培される。国内での本種の利用に関する情報は得られなかった。	別学名 <i>Erianthus formosanus</i> var. <i>pollinioides</i> 。奄美地域への影響も危惧されている。	各県:奄美	便覧、写真図鑑、Ylist、目録、園芸事典	
174	225	ヤシ	トウ属の一種(カラムス)	<i>Calamus</i> sp.	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	トウ属は約375種がインドからマレーシア熱帯地域に分布。台湾には3種が自生。	石垣島で植栽品が広がっており、今後分布域を拡大する可能性が高い。	腐植質の多い土壌を好む。多湿を好み、とくに幹の細い種類は湿地に自生するため乾燥に弱い。	日本ではカラムスの名前で観葉植物に利用されている。全体に刺が多く鉢栽培には不適。タイワントウ(シマトウ、水豚、スイトウ、スイトウ) <i>C. formosanus</i> 、ロタントウ <i>C. rotang</i> (<i>C. roxburghii</i>)等が販売、栽培される。	西表島や石垣島の自然林に定着して在来植物との競合、駆逐が危惧される。棘があることから、人的な被害も予想され、駆除は困難になると予測される。生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある地域への持ち込みは行うべきではない。	未同定のため、トウ属かどうか断定できない。西表島や石垣島の自然林に定着すると、棘による人的被害も予想され、駆除は困難と思われる。	その他:横田委員	有用、横田委員、Ylist、JF、園芸事典
175	233	ショウガ	ハナシユクシャ(シユクシャ、バタフライジンジャー)	<i>Hedychium coronarium</i>	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	インド-マレーシア原産。オーストラリア、南アメリカ、アソレス諸島、マスカリン諸島、太平洋諸島に分布。アフリカ南部、ハワイ諸島で侵略的。	園芸植物として江戸時代に渡来。沖縄への渡来年は不明。山口、宮崎、琉球、小笠原で帰化。	湿性林、湿地、川岸など、やや湿り気のある場所を好む。自生地では林内に生育する。熱帯では周年、日本では夏から初秋にかけて開花する。	切り花や観賞用に広く栽培される。根茎や花の精油を薬用や香水に利用する。根茎のデンプンを食用にする。多くの種類がつかうられている。	奄美地域では、国の天然記念物、国立公園特別保護地区である湯湾島の頂上に植えられて問題とされている。海外で侵略的な外来植物とされ、林内でも生育できるため、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある地域への持ち込みは行うべきではない。	めったに結実しないため、おもに根茎による栄養繁殖で増える。	各県:奄美、海外:ISSG	写真図鑑、便覧、有用、JF、園芸事典、IPSW
適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種)																																								
176	89	マタビ	キウイフルーツ(シナサルナン)	<i>Actinidia chinensis</i> var. <i>deliciosa</i>	分布拡大期-まん延期	産業管理外来種	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	中国原産で、ニュージーランドで改良された品種が渡来。	北海道、本州、四国の一部で逸出。	幼木時代には寒害を受けやすいが、樹齢が進めば休眠中の耐寒性は相当に強くなる。連霧、風害には弱い。土壌条件は乾燥、過湿にも弱い。カンキツ類の栽培適地にほぼ一致する。	1969年に実生苗と挿し苗から初結実をみて、近年栽培面積が増加している。様々な品種がある。	河川で増加傾向にあり、鳥により種子が散布されること等から、雑木林への影響が危惧されている。こうした環境へ侵入するおそれのある場所での結実には両性の株が必要。別学名 <i>Actinidia deliciosa</i> 、オニサルナン(広義) <i>Actinidia chinensis</i>	専門家:雑木、7、各県:埼玉、愛媛、河川:0.5.10	便覧、木本、有用、JF、園芸事典	
177	102	バラ	ビワ(ヒワ)	<i>Eriobotrya japonica</i>	分布拡大期-まん延期	産業管理外来種	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	中国四川省・湖北省原産。北アメリカ、太平洋諸島、レユニオン島に分布。	奈良時代からあり、本州(関東以西)、四国、九州で野生化。	日本では、暖地の石灰岩地に生える。海外では、農耕地、自然林、植林地、河岸、荒地、撈乱地に生育する。	様々な品種が食用に栽培される。薬用にも利用される。海外でも食用や観賞用に栽培される。	ビワが生育する石灰岩地は、特有な植物群落が生ずる貴重な環境である。そのため、そうした場所に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	専門家:岩場、13、海外:ISSG	便覧、木本	

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案)(パブリックコメント版) <植物>
【国外由来の外来種】

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着段階	カテゴリー	対策優先度の要件		特定外来種/旧要注意	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目										重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	原産地や分布	日本での分布	形態	生育環境など	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
							被害の深刻度	実効性・実行可能性				定着可能性		生態系被害		分布拡大・拡散																			
												生物	輸入	競合	交雑	変異	散布	繁殖	気候	持続															
178	103	マメ	ハリエンジュ(ニセアカシア)	<i>Robinia pseudoacacia</i>	分布拡大期 ~まん延期	産業管理 外来種			旧要注意	河原、海岸林、リンゴ園の周辺															北アメリカ合衆国、ヨーロッパ、アジア、オーストラリア、南アメリカに分布。	明治8年の渡来、北海道、本州、四国、九州、琉球。	25m、落葉高木	市街地や海岸から低山地までの荒地、土手、野原などにしばしば群生する。	・庭木、街路樹、砂防林、肥料木、薪炭材等に利用される。 ・アカシア蜂蜜として単花蜜で高品質な蜂蜜が生産されるため、養蜂業においては最重要蜜源植物のひとつ。 ・アカシア蜂蜜は国産蜂蜜では最も高価で取引されている。特に長野県、秋田県等のアカシア蜂蜜主産県では、開花状況によって年度変動はあるものの、8割から9割がアカシア蜂蜜であり、代替となる種は現在のところ存在しない。	・河川を中心に分布を拡大しており、北海道他9県で、生態系に影響を及ぼす種類等にあげられている。種子が風や水で拡散されていると考えられている。こうした拡散のおそれに対応するほか、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある地域では使用を避けることが望ましい。 ・リンゴ炭そ病が高湿多湿化の梅雨時に、ニセアカシアの花弁が果実に付着することで伝播するとの報告があり、リンゴ園周辺では、使用を避けることが望ましい。 ・海岸林については、倒伏による危険や、クロマツに悪影響を及ぼさない管理が必要である。	・H24に改正された養蜂振興法第六條では、「蜜源植物を植栽、除去、又は伐採しようとする者は、その目的に反しない限りにおいて、蜜源植物の増大を旨としてこれを行わなければならない。」とされ、国・地方公共団体に蜜源植物の保護・増殖に対する必要な施策を講ずることが求められている。	要注意 W100:日本、村中:A、FAO:10、H20<4、H23<4、専門家:河原50、各県:北海道・青森・埼玉・兵庫・愛知・鳥取・愛媛・佐賀、河川:56.89.97、三省:国道、海外:ISSG	便覧、帰化植物、雑草、農林水産省		
179	103	マメ	外来クサフジ類(ビロードクサフジ(ヘアリーベッチ、シラゲクサフジ)、ナヨクサフジ(スミーズベッチ))	<i>Vicia villosa</i> ssp. <i>villosa</i> , <i>V. villosa</i> ssp. <i>varia</i>	分布拡大期 ~まん延期	産業管理 外来種				河川敷や山地草原															ビロードクサフジはヨーロッパ-西アジア原産。ナヨクサフジは、ヨーロッパ原産。	ビロードクサフジは1941年渡来、北海道、本州、四国、九州、琉球。ナヨクサフジは1943年に渡来し、本州、四国、九州、琉球。	茎の長さ1.5m、つる性の一年草	道端、畑地、牧草地、樹園地、荒地、河川敷、草地などに生育。山地まで生え、熱帯では高地にみられる。	河原で繁茂することから、カワラヨモギ、メハギ等の河群植物と競合し、駆逐する。群馬県では、県の絶滅危惧種A類のレンリソウの自生地に繁茂している。河川に侵入して種子が拡散される場所への持ち込みを行うべきではない、ヘアリーベッチの名で、飼料や緑肥として栽培される。	FAOと群馬県はナヨクサフジ。群馬県ではナヨクサフジが絶滅危惧種の自生地に繁茂。牛が中毒を起こす場合がある。在来のクサフジ等、良く似た種類が多い。種子は風、雨、動物により分散、アレロパシー作用がある。	FAO:6、専門家:河原32、各県:群馬県、河川:9.16.27.4.2	世雑、便覧、帰化植物、牧草			
180	224	イネ	コヌカグサ(レッドトップ)、クロコヌカグサ	<i>Agrostis gigantea</i> , <i>Agrostis nigra</i>	分布拡大期 ~まん延期	産業管理 外来種				河川敷、絶滅危惧種のヌカガサの生育地周辺															ヨーロッパ原産。北アメリカ、アジア、オセアニア、南北アメリカ等、温帯-亜寒帯、合衆国やカナダで侵略的とされる。	明治初年に導入され、北海道、本州、四国、九州、琉球(奄美大島)	1.0m、多年草	畑地、牧草地、樹園地、路傍、草原、湿地、水辺などに生育。日当たりの良い所を好む。耐寒性が強く、強酸性土壌に生え、耐旱性もある。湿潤であれば土壌の種類を選ばないが、一般に粘質土壌-壤土に多く、やせた土地にも適応する。	・飼料用、特に放牧用として利用されている。種子流通量は多くはないが、国内の種苗会社から販売されている。 ・牧草としては、生産性や栄養価はあまり高くないものの、やせた土地などの条件不利地や林間放牧等での利用においては、代替となる種はほとんどない。 ・いくつかの県の奨励品種に登録されており、生産が奨励されている。 ・緑化植物として早期緑化(崩壊地やのり面等の緑化)の観点から非常に優れていることから、広く利用されている。	・河川での分布拡大のほか、三省調査でも法面緑化地周辺で逸出が確認されている。青森県や栃木県では自然草原に侵入し、問題となっている。 ・国立公園や草原に特有な希少種が生育する自然草原の周辺では可能な限り利用を控えるか、このような場所で利用する場合には、種子の逸出を防止する配慮が必要である。牧草利用する際には、牧草地への種子の逸出を防ぐために、結果前に刈り、周縁部の草刈りを適切に行うとともに、利用しない種子については放置せずに適切に処分するよう努める。その他の非意図的な外来種の混入を防ぐ観点から、種子証明のある種子の利用が望ましい。	種子、地下茎および匍匐茎で繁殖する。1種当たりの生存種子数は約1,000個、休眠期間が短く、湿潤な土壌表面で容易に発芽する。土壌中の種子の寿命は5年以上。アレロパシー作用を持つ。世界的に温帯-亜寒帯地域にみられる畑地雑草で、コムギ、オオムギ、エンバク、牧草類、果樹類の減収や品質低下をもたらす。日本でもコムギ、パレイン、テンサウイ畑の雑草とされる。在来種が再生するような環境では、コヌカグサを緑化に使うべきではないとされる(ISSG)。コヌカグサの別学名 <i>Agrostis alba</i> 、コヌカグサとクロコヌカグサとの間には中間型もあり、同種として扱う見解もあるため、両種を含む。	村中:B、各県:青森・栃木・宮城、河川:52.87.93、三省:環、農、林、国、海外:ISSG	便覧、イネ、世雑、雑草、粗飼料、花粉、農林水産省、林野庁、Ylist、GCW、帰化植物、イネ、藤井委員		
181	224	イネ	カモガヤ(オーチャードグラス)	<i>Dactylis glomerata</i>	分布拡大期 ~まん延期	産業管理 外来種			旧要注意	山地草原															地中海-西アジア原産。ヨーロッパ、アジア、オセアニア、南北アメリカ等の温帯	1861-1864年(文久年間)に渡来。1868年(明治初年)にアメリカから導入。北海道、本州、四国、九州、琉球	1.5m、多年草	畑地、樹園地、路傍、荒地、土手、草地、河川敷、林縁、湿地、沿岸域等に生育。日当たりの良い温暖地で、肥沃な所を好む	・飼料用(主に採草用)としてチモシーと並び最も広(利用)されており、沖縄を除く全国で栽培されており、特に北海道-東北地方では基幹となる草種。世界的に利用されている牧草種のひとつ。 ・牧草として利用する際は、種子が生産前に収穫するため、種子が飛散して繁殖する可能性は通常はない。 ・多くの種苗会社から販売されており、公的機関及び民間種苗会社での品種開発も行われている。 ・生産性・持続性・栄養価等の観点から、代替となる牧草種はない。 ・多くの県の奨励品種に登録されており、生産が奨励されている。 ・緑化植物として早期緑化(崩壊地やのり面等の緑化)の観点から非常に優れていることから、広く利用されている。	・海外で侵略的な外来種とされ、日本でも河川で分布を拡大し、三省調査でも法面緑化地周辺で逸出が確認されている。特に、北海道や本州の亜高山帯にある国立公園の自然草原へ侵入し、草原に特有な希少種等への影響が問題となっている。このような場所で利用する場合には、種子の逸出を防止する配慮が必要である。 ・牧草利用する際には、牧草地への種子の逸出を防止するために、結果前に刈り取り、周縁部の草刈りを適切に行うとともに、利用しない種子については放置せずに適切に処分するよう努める。その他の非意図的な外来種の混入を防ぐ観点から、種子証明のある種子の利用が望ましい。	(独)家畜改良センターの業務(飼料作物の増殖に必要な種苗の生産・配布)家畜改良センター法§10(三)として、増殖を行っている。 ・トウモロコシ、モロコシ、コムギ、牧草、果樹の雑草、イネ科やマメ科の牧草種子に混入して、品質を低下。	要注意 W100:日本、村中:A、FAO:10、専門家:草原42、各県:青森・埼玉・愛知・兵庫・愛媛、河川:57.104.105、三省:環、農、林、国都・国道	便覧、帰化植物、写真図鑑、世雑、雑草、花粉、外来生物、IPSW、農林水産省、林野庁		
182	224	イネ	オニウシノケサ(トルフェスク、グンタッキー-31フェスク)	<i>Festuca arundinacea</i>	分布拡大期 ~まん延期	産業管理 外来種			旧要注意	里草地、河川堤防などの半自然草地、亜高山帯の草地															ヨーロッパ、北アメリカ、西アジア原産。亜寒帯-暖帯	1905(明治38年)年に導入。北海道、本州、四国、九州、琉球、亜高山帯の自然公園にも侵入	2.0m、多年草	牧草地、市街地、運動場、庭、路傍、荒地、河原、林縁等に生育。日当たりの良い、肥沃で水分の豊富な所を好む。	・チモシーやオーチャードグラスと比較すると栄養価は劣るが、環境変異に強い飼料用(主に放牧用)や緑化用として全国で利用されている。特に、寒地型の永年性の牧草としては、関東以西の温暖地で利用可能な種が非常に少なく、代替品種はない。世界的に利用されている牧草種のひとつ。 ・牧草として利用する際は、種子が生産前に収穫するため、種子が飛散して繁殖する可能性は通常はない。 ・多くの種苗会社から販売されており、公的機関及び民間種苗会社での品種開発も行われている。 ・多くの県の奨励品種に登録されており、生産が奨励されている。 ・「生態系環境配慮型-トルフェスク」として、農研機構及び民間種苗が共同開発した「MST-1(無花粉トルフェスク)」や生産性の低い「ボンサイ3000(緑性トルフェスク)」という品種が開発されているが、種子の価格が高いことや生産性が低いことから、緑化用としての利用に限定されており、代替は非常に困難。 ・緑化植物として早期緑化(崩壊地やのり面等の緑化)の観点から非常に優れていることから、広く利用されている。 ・奄美地域では、要注意外来生物に選定される等利用されなくなった。	・海外で侵略的な外来種とされ、日本でも河川で分布を拡大し、三省調査でも法面緑化地周辺で逸出が確認されている。特に、北海道や本州の亜高山帯にある国立公園の自然草原へ侵入し、草原に特有な希少種等への影響が問題となっている。このような場所で利用する場合には、種子の逸出を防止する配慮が必要である。 ・牧草利用する際には、牧草地への種子の逸出を防止するために、結果前に刈り取り、周縁部の草刈りを適切に行うとともに、利用しない種子については放置せずに適切に処分するよう努める。その他の非意図的な外来種の混入を防ぐ観点から、種子証明のある種子の利用が望ましい。	・オーストラリア、ニュージーランド、合衆国の一部地域で侵略的となっている。	要注意 W100:日本、村中:A、FAO:8、専門家:草原43、各県:青森・栃木・埼玉・愛知・広島・佐賀・愛媛、河川:61.99.112、三省:環、農、林、国、道	世雑、花粉、外来生物、IPSW、農林水産省、林野庁		

<種の抽出に利用した既存の文献等>

作業量の限界から、全体で数百種類程度となるよう、かつできるだけ異なる観点から抽出を行った。

特定外来生物(12種)と要注意外来生物 (84種)

IUCNのワースト100のうち植物27種(在来種を除く全種が既に　に含まれている)。http://www.issg.org/database/species/search.asp?st=100ss&fr=1&str=&lang=EN

日本の侵略的外来種ワースト100のうち植物26種(既に全種が　に含まれている)。日本生態学会(2002)外来種ハンドブック . 地人書館 .

村中ら(2005)掲載の108種(　河川重視の評価)。

村中孝司・石井潤・宮脇成生・鷲谷いづみ(2005)特定外来生物に指定すべき外来植物種とその優先度に関する保全生態学的視点からの検討 . 保全生態学研究10: 19-33 .

F A O方式による雑草性リスク評価の結果、6点以上の特に注意すべき外来植物(*は今後導入される可能性のある外来植物)

外来生物のリスク評価と蔓延防止策(文部科学省科学技術振興調整費・重要課題解決型プロジェクト)による雑草性リスク評価、日本農学会(2008)外来生物のリスク管理と有効利用 . 養賢堂 .

地方公共団体や民間団体により、対策の対象となっている種(数字は対策事例数)

環境省自然環境局野生生物課(2009)平成20年度外来種対策事例等に関する調査報告書 .

環境省自然環境局野生生物課(2012)平成23年度外来種問題調査検討業務報告書 .

専門家アンケートで、ハビタットや在来種への影響が大きい(74人中5名以上があげた)種(数字は回答者数)

ハビタットの種類:海洋島、水生植物群落、河原・崩壊地の貧栄養砂礫地、里山の二次草原、貧栄養湿地、砂浜海岸、高山植生、塩性湿地、雑木林・都市林、極相林、低地岩場、海岸の岩場

小池文人・小出可能・西田智子・川道美枝子(2010)専門家アンケートによる在来植物の脅威となる外来生物の重要度評価　http://vege1.kan.ynu.ac.jp/lecture/invasiveness2010.pdf

都道府県などで特に侵略的または優先的に対策すべきとされる種

北海道ブルーリスト2010 , http://bluelist.hokkaido-ies.go.jp/

カテゴリーA2：本道の生態系等へ大きな影響を及ぼしており、防除対策の必要性について検討する外来種17種(カテゴリーA1はなし、A3は106種が掲載)

青森県(2006)青森県外来種対策学術調査報告書 - 青森県外来種リスト - . http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kankyo/shizen/files/2008-0607-1553-a.pdf

カテゴリーA(侵略的定着外来種)：本県に定着している外来種のうち、生物多様性への影響が報告されている又は懸念される種のうち、代表的な選定種30種

栃木県、長谷川順一(2008)栃木県の自然の変貌，自然の保全はこれよりのか(自刊) .

近年増加が顕著な帰化植物

群馬県、石川真一・清水義彦・大森威宏・増田和明・柴宮朋和(2009)外来植物の脅威 - 群馬県における分布・生態・諸影響と防除方法 - . 上毛新聞社事業局出版部 .

県内で生育が確認され、生態系等への被害が想定される「県内危険外来種」11種

埼玉県環境防災部みどり自然課(2005)埼玉県内において在来の植生に悪影響を及ぼすおそののある侵入的外来植物について . 改訂・埼玉県レッドデータブック2005植物編299-306pp .

危険度5　極めて危険・すでに在来植生に侵入し、在来種と競合して在来種を駆逐しているもの。コカナダモ、オオフサモなど17種

・すでに在来の種と交雑し、雑種に繁殖力があるもの。セイヨウタンポポなど

危険度4　非常に危険・すでに在来植生に侵入し、近い将来、在来種を駆逐する危険の高いもの。オニマタビなど25種

・すでに在来種との交雑が確認されているが、現時点では雑種に繁殖力がないもの

侵入した植生のタイプ:河川敷、池沼・湿地、落葉樹林、林縁、路傍等

千葉県外来種対策(植物)検討委員会(2010)千葉県の外来種(植物)の現状等に関する報告書 .　http://www.bdcchiba.jp/alien/bdc-alien/alienplantsreport2009.pdf

「影響度」および「緊急度」、「容易性」がともにAランクの23種

愛知県環境部自然環境課(2012)愛知県の移入動植物ブルーデータブックaiti2012(STOP!移入種　守ろう！あいちの生態系～愛知県移入種対策ハンドブック～付属資料抜刷)

http://www.pref.aichi.jp/kankyo/sizen-ka/shizen/gairai/handbook/pdf/10_shiryou3-plants.pdf

環境影響が大きい、あるいは今後大きくなることが予想される植物78種

愛知県、上記のうち「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」(以下「条例」という。)において、生態系に著しく悪影響を及ぼすおそののある移入種13種

http://www.pref.aichi.jp/kankyo/sizen-ka/shizen/gairai/jorei.html

滋賀県で注意すべき外来生物、10種　http://www.lbm.go.jp/emuseum/zukan/gairai/shiga.html

ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例、**指定外来種**　http://www.pref.shiga.lg.jp/d/shizenkankyo/kyoseijourei.html#kisyo_gairai

京都府外来生物情報、京都府外来生物リスト

被害甚大種(京都府内における被害が大きく、又は大きくなる可能性が強く緊急に策が必要な外来種) 5種　http://www.pref.kyoto.jp/gairai/list/spermatophyta.html

被害危惧種(京都府内における被害があり、又は被害が生じる可能性が強く対策が必要な外来種)のうち特に被害が大きいと認められる種37種　http://www.pref.kyoto.jp/gairai/data/index.html

兵庫県(2010)生物多様性に悪影響を及ぼす外来生物への対応，兵庫県生物多様性に悪影響を及ぼす外来生物リスト(ブラックリスト)(2010)

2警戒種(生物多様性への影響が大きい、または今後影響が大きくなることが予測される32種)

鳥取県生物学会(2007)鳥取県の外来性動植物のリスト(2007) . 山陰自然史研究3:37-45 .

本県への影響大とされる10種

岡山県、外来食虫植物の除去(岡山県自然保護センター) http://opnacc.eco.coocan.jp/chosa-kenkyu/gairai-shokuchu-shokubutsu.html

広島県、吉野由紀夫・太刀掛優・関太郎(2007)広島県における外来植物の現状とその問題点 . 比婆科学224:1-18 .

ランクA:広島県の自然生態系に重大な影響をおよぼすおそののある種64種

愛媛県野生動植物の多様性の保全に関する条例に基づく侵略的外来生物の公表について http://www.pref.ehime.jp/h15800/gairaiseibutu/index.html、侵略的外来生物40種

佐賀県環境の保全と創造に関する条例、移入規制種18種、http://www.pref.saga.lg.jp/web/kurashi/_1262/_33058/_33943/jourekiseishu.html

宮崎県版レッドデータブック改訂検討委員会(2011)改訂・宮崎県版レッド - データブック宮崎県の保護上重要な野生生物、宮崎県環境森林部自然環境課、植物のブラックリスト11種類

小笠原諸島、延島冬生(2010)小笠原諸島に侵入している外来植物の現状、植調44(1)5-13 . 侵略的外来樹木9種、侵略的外来草本8種

奄美、環境省九州地方環境事務所那覇自然環境事務所(2010)平成21年度奄美地域における国立公園特別地域内放出規制植物種検討調査業務報告書 .

多くの河川で確認されている種と、確認される河川数が急激に増えている種(表の数字は3回の調査での確認河川数で、下記に該当する種は太字で示した)

河川水辺の国勢調査1・2・3巡回調査結果総括検討(河川版)(生物調査編)平成20年3月　国土交通省河川局河川環境課　http://www3.river.go.jp/gaiyou.htm

a.多くの河川で確認されている

1 1 巡目から3 3 巡目までのいずれかで、出現率(出現河川数 / 対象河川数)が50%を超えるもの(史前帰化植物を除く)。

b.確認される河川数が急激に増えている

1 1 巡目から3 3 巡目までに確認河川が4 4 倍以上、または2 2 巡目から3 3 巡目までに確認河川数が2 2 倍以上になった種

(各回の対象河川数の違いは出現率として補正して算出、1 1 巡目や2 2 巡目の出現河川数が0 0 の種類も含む、3 3 巡目の確認河川数が10 10 以上を対象)

1 1 巡目: H 2 ~ H 7 に78 78 河川で実施、2 2 巡目: H 8 ~ H12 12 に119 119 河川で実施、3 3 巡目: H13 13 ~ H17 17 に121 121 河川で実施

緑化植物に関する三省調査で、法面緑化地周辺において逸出が確認された種(括弧内は調査実施主体の略)

環境省自然環境局・農林水産省農村振興局・林野庁・国土交通省都市・地域整備局・国土交通省河川局・国土交通省道路局・国土交通省港湾局(2006)平成17年度外来生物による被害の防止等に配慮し

た緑化植物取扱方針検討調査委託事業報告書 .

なお、生態系への影響に対応した望ましい取扱方向(案)の対象種は、イネ科植物、ハリエンジュ、(外国産)在来緑化植物とされている。

海外の評価

ISSG掲載の在来種以外: Lists of Invasive Alien Species (IAS) , http://www.issg.org/database/reference/Index.asp

その他

検討委員からの情報提供

【主な参考文献と略称】

Bossard, C. C., J. M. Randall and M. C. Hochovsky. 2000. Invasive Plants California's Wildlands. University of California, Berkeley. 360pp. (IPCW)

Global Compendium of Weeds. <http://www.hear.org/gcw/index.html> (GCW)

橋本梧郎(1996)ブラジル産薬用植物事典. アポック社. (ブラジル)

林弥栄(1985)山溪カラー名鑑日本の樹木. 山と溪谷社. (樹木)

Holm, L. G., J. V. Pancho, J. P. Herberger, and D. L. Plucknett (1991) A Geographical Atlas of World Weeds. Krieger Publishing Company, Malabar, Florida. (GAWW)

堀田満・緒方健・新田あや・星川清親・柳宗民・山崎耕宇(1989)世界有用植物辞典. 平凡社. (有用)

星野卓二・正木智美・西本眞理子(2011)日本カヤツリグサ科植物図譜. 平凡社. (カヤツリグサ)

岩槻邦男(1992)日本の野生植物シダ. 平凡社. (シダ)

岩月善之助(2001)日本の野生植物コケ. 平凡社. (コケ)

JFコード(日本花き取り引きコード)センター <http://www.jfcode.jp/TOP.aspx> (JF)

角野康郎(2014)ネイチャーガイド日本の水草. 文一総合出版. (角野)

草薙得一・近内誠登・芝山秀次郎(1994)雑草管理ハンドブック. 朝倉書店. (雑管)

邑田仁・米倉浩司(2012)日本維管束植物目録. 北隆館. (目録)

長田武正(1989)増補日本イネ科植物図鑑. 平凡社. (イネ)

大野昭好・片野田逸朗(1999)琉球弧・野山の花. 南方新書. (琉球弧)

尾崎章・河瀬晃四郎・山中雅也(1991)山溪カラー名鑑観葉植物. 山と溪谷社. (観葉)

Institute of Pacific Islands Forestry, Pacific Island Ecosystems at Risk (PIER) Plant threats to Pacific ecosystems. <http://www.hear.org/pier/index.html> (PIER)

斎藤洋三・井出武・村山眞司(2006)新版・花粉症の科学. 化学同人. (花粉)

坂崎信之(1998)日本で育つ 熱帯花木植栽事典. アポック社. (熱帯花木)

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(1982)日本の野生植物草本 単子葉類. 平凡社. (草本)

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(1982)日本の野生植物草本 離弁花類. 平凡社. (草本)

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(1982)日本の野生植物草本 合弁花類. 平凡社. (草本)

佐竹義輔・原寛・亙理俊次・富成忠夫(1989)日本の野生植物木本 . 平凡社. (木本)

佐竹義輔・原寛・亙理俊次・富成忠夫(1989)日本の野生植物木本 . 平凡社. (木本)

清水建美(2003)日本の帰化植物. 平凡社. (帰化植物)

清水矩宏・宮崎茂・森田弘彦・廣田伸七(2005)牧草・毒草・雑草図鑑. 全国農村教育協会. (牧草)

清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七(2001)日本帰化植物写真図鑑. 全国農村教育協会. (写真図鑑)

自然環境研究センター(2008)日本の外来生物. 平凡社. (外来生物)

鈴木基夫・横井政人(1998)山溪カラー名鑑園芸植物. 山と溪谷社. (園芸)

太刀掛優・中村慎吾(2007)改訂増補帰化植物便覧. 比婆科学教育振興会. (便覧)

高橋秀男・勝山輝男(2000)山溪ハンディ図鑑3 樹に咲く花、離弁花 . 山と溪谷社. (樹の花3)

高橋秀男・勝山輝男(2000)山溪ハンディ図鑑4 樹に咲く花、離弁花 . 山と溪谷社. (樹の花4)

高橋秀男・勝山輝男(2000)山溪ハンディ図鑑5 樹に咲く花、合弁花・単子葉・裸子植物. 山と溪谷社. (樹の花5)

高野信雄(1989)粗飼料・草地ハンドブック. 養賢堂. (粗飼料)

竹松哲夫・一前宣正(1987)世界の雑草 合弁花類 . 全国農村教育協会. (世雑)

竹松哲夫・一前宣正(1993)世界の雑草 離弁花類 . 全国農村教育協会. (世雑)

竹松哲夫・一前宣正(1993)世界の雑草 離弁花類 . 全国農村教育協会. (世雑)

塚本洋太郎(1994)園芸植物大事典全3巻. 小学館.

豊田武司(2003)小笠原植物図譜(増補改訂版). アポック社. (小笠原)

植村修二・勝山輝男・清水矩宏・水田光雄・森田弘彦・廣田伸七・池原直樹(2010)日本帰化植物写真図鑑第2巻. 全国農村教育協会. (写真図鑑)

United States Department of Agriculture, Natural Resources Conservation Service, plants Database. <http://plants.usda.gov/java/> (USDA)

山崎美津夫・山田洋(1994)世界の水草 . 八口ウ出版社. (水草)

山崎美津夫・山田洋(1994)世界の水草 . 八口ウ出版社. (水草)

山崎美津夫・山田洋(1994)世界の水草 . 八口ウ出版社. (水草)

米倉浩司・梶田忠(2003-)BG Plants 和名・学名インデックス. (YList) http://bean.bio.chiba-u.jp/bgplants/ylist_main.html

Weber, E. 2003. Invasive Plant Species of the World, A Reference Guide to Environmental Weeds, CABI Publishing. (IPSW)